

いただいたアイデア・ご意見に対する本協会の考え方

※いただいたご意見については、基本的に原文のまま掲載していますが、公表にあたり、一部表現等を編集させていただきます。御了承ください。

NO.	ご意見	本協会の考え方
1	相模鉄道本線瀬谷駅と三ツ境駅、北側に東急田園都市線南町田グランベリーパーク駅、JR 横浜線十日市場駅から自走式ロープウェイ Zippar で輸送することが良いと思います。シャトルバスでは道路交通となるため、渋滞や騒音、COs 排出など問題があります。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
2	レガシー施設の活用として、温室をつくる。国営公園レベルの花名所をつくるなど、具体的な取り組みを期待したい。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
3	各地区よりバスを走らせて欲しい 料金は少し位高めでも良いと思います。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
4	横浜・瀬谷の海軍道路の桜並木の伐採は花博の趣旨 SDGs に反し、多くの市民が親しんできた貴重な自然環境を破壊するもので反対です。上瀬谷通信施設跡地の現在の自然環境を保全し、上瀬谷の豊かな自然を生かしたまちづくりをするよう、2027 横浜国際園芸博覧会（花博）の計画見直しを求めます。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会として

		は、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。 また、会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境(地形、土、水、風、緑)を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
5	米軍の残した鉛やヒ素などの有害物質のデータを公開し、行政が責任を持って土壌汚染を回復して住民の健康被害の懸念を払拭すべきです。	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
6	現行の花博計画は地元で大渋滞を招いて住民の生活を妨げる恐れがあり、有料来場者数1千万人という過大な見通しは赤字補填による余計な税負担を招く恐れが濃厚です。 巨額の税金を注ぐ花博とテーマパーク建設に、病院やミニバス、防災拠点などより高い市民ニーズがあるでしょうか。 花博を実施するか、上瀬谷通信施設跡地をどのように生かしていくかはゼロベースで丁寧に市民の意見を聞き取って合意形成していくべきです。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。 また、横浜市では、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」(2020 年 3 月、横浜市)において、まちづくりのテーマに「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」を掲げています。当基本計画では、今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
7	横浜市政、財政に不満があり、2年後、南町田グランベリーパーク駅近くに転居を予定している。 当該、開催地の最寄駅として、シャトルバス発着地に南町田グランベリーパーク周辺は利用しないで欲しい。 新たな住居周辺の渋滞や人流を呼ばないで欲しい。 横浜の事は横浜で解決して欲しい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。

8	期間内に開催される博覧会だけでなく、その期間までに開催される自然関係のイベント（ガーデンネックレス横浜など）を「花博につなげる」ではなく「花博の『一部』」として取り扱ってみるというのはいかがでしょうか。インターネット上で「花博につなげるイベント」に対し「これが花博でいいから博覧会は中止するべき」といった心無い意見があり、そこから「所定期間の博覧会だけを花博としないで、本開催の期間までに様々な博覧会が入れ替わり行われる」といった構想が思いつき、それがガーデンネックレス横浜と重なってイメージとして形になりました。 動かさなくてはならない部署は多いと思いますが、気に留めてくだされば幸いです。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
9	花博開催後のグリーンシティとしての横浜市のイメージが不明瞭である。sdgs との関係も含め、具体的に、市内がどうなるのか、闇内にどのような影響を与えたいのか、市民の行動がどのように変容するのか、イメージさせてほしい。このことが幸せをイメージさせ、機運醸成や参加意欲につながる一番大事なことだと思います。	国際園芸博覧会の開催意義は、テーマの実現に向けた主催者、参加者による取組のプロセスの中で紡がれ、未来につながっていきます。本博覧会の開催前～開催中～開催後を通した多様な主体の連携により「参加者自らが作った博覧会」という意識を醸成し、意識変容・行動変容につなげていきます。 計画段階からレガシーの方向性を想定しながら、本博覧会のプロセスを進めていきます。いただいたご意見は、横浜市と共有し、参考にさせていただきます。
10	基本計画案が公表され、園芸博覧会開催に向けて着々と準備が進んでいるように感じます。花と緑があふれる博覧会開催楽しみにしています！ 全国、世界から行きたい！と思えるような博覧会にしてください。 応援しています。	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
11	IR 計画がなくなった山下ふ頭や山下公園周辺をサブ会場にすると周辺商業施設、宿泊施設に経済効果があるため周辺企業や個人からクラウドファンディングのような方法で資金を集められるのではと思う。 上瀬谷は自然をなるべく残し、山下ふ頭周辺は人工物を作りこむなど役割を分けたほうがいいのか	会場計画に当たっては、自然環境（地形、土、水、風、緑）を読み込み、そのポテンシャルを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な空間基盤を形成します。まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物といった既存の自然環境をできる限り保全・活用し、さらにそのポテンシャルを向上させるような計画を進めていきます。 なお、山下ふ頭については、新たなまちづくりに向け、令和 12 年（2030 年）頃の供用、令和 8 年度（2026 度）頃の事業化を目標とし、再開発の事

		業計画策定等に取り組んでいると横浜市に確認しています。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
12	2027 年国際園芸博覧会のマスコットにガーデンベアを採用して欲しい。 2017 年から続いているガーデンネックレスで認知度も人気も上がってきているので、ガーデンベアは国際園芸博覧会のマスコットとして最適だと思います。	開催意義やテーマを体現し、幅広い層に対して本博覧会への認知度向上や、親しみの醸成の役割を担う公式マスコットキャラクターを制作します。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
13	フェーズごとにターゲットが異なると思うので、それが知りたいです。また、ロゴ、マスコット、アンバサダーは各フェーズ毎のターゲットに効果的に訴求できるような内容、タイミングとなるようにスケジューリングされているのでしょうか(そうでないと失敗すると思うので)。	フェーズ 1：存在認知拡大期（2022～2023 年度）本博覧会の開催を認知させるための「タネまき」となるコミュニケーションを開始します。具体的には、本博覧会に向けた活動を随時発信する広報活動、公式ロゴマーク、公式マスコットキャラクターといった広報ツールの制作と各種ツールを使ったプロモーション活動を行うことで、開催都市である横浜市の支援者・出展者を主な対象とした機運醸成や協力関係の構築を行います。また、同時期に集中している海外の博覧会とも連携することで国外での認知度向上を図り、公式参加国等の招請活動へもつなげます。 フェーズ 2：コンテンツ認知拡大期（2024～2025 年度）本博覧会開催の認知獲得に加え、来場促進を目的としたコミュニケーションを展開します。制作した公式ロゴマークや公式マスコットキャラクターを活用して各種イベントの開催又は参加や、会場でのコンテンツに重点を置いて情報発信を行うことで来場者への期待感を醸成し、前売券の販売につなげます。また、コミュニケーション活動の推進により、出展者及び支援者の主体的な参加を促すとともに開催機運を盛り上げていきます。 フェーズ 3：来場促進期（2026 年 4 月～12 月）会場内コンテンツに関する具体的な情報を発信し、前売入場券の販売や来訪意向の向上を強化する時期です。開幕 1 年前のカウントダウンイベントの実施を皮切りに、様々なメディアを活用したプロモーションを強化し来場促進を加速化させます。また、出展者、支援者による情報発信と連携し、相乗効果による本博覧会への来訪意向の向上を図ります。 フェーズ 4：理解共感期（2027 年 1～9 月）本博覧会開催直前期から終了までの期間とし、新規の来場者誘引と既来場者の再訪意欲を向

		上させる時期です。マス広告による来場促進は継続しつつ、メディアと連携し会場内の盛況な様子やコンテンツを公式 SNS や定例記者会見を通じリアルタイムで発信していきます。また、コミュニケーション活動の成果として会場内で多様な共創の取組を発信します。フェーズ5：レガシー発展期（2027年10月～2029年3月）本博覧会の成果と参加者への感謝を広報する時期です。本博覧会の成果を世界の人々に発信するとともに、参加国を初め全ての参加者に感謝を伝える広報活動を行います。また、様々な媒体による記録の作成や、コミュニケーション活動により生まれたコミュニティや取組を継続しレガシーとして継承していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
14	未来の日本をつくる、子供たちに、この素晴らしい博覧会を通して、緑や花の世界を学んでもらいたい、と思います。 子供たちが、観覧できる、もしくは、出演できるような、参加型ステージを希望します。 花や緑にかかわることであれば、音楽演奏や、ダンスなどを通じ、人々がひとつになり、感動できる空間があれば、より、すてきなイベントになると思います。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
15	会場周辺の道路整備に不安。 八王子街道、海軍道路、16号線の混雑しないための対策が不明、元上瀬谷通信施設側に海軍道路に代わる道路をつくり、生活道路とは、わけて、保土ヶ谷バイパスから直接入る、駐車場がひつよではないか。今でも混雑している海軍道路、上下二車線の道路を横につくり、桜はそのままに、今の道は、遊歩道にできれば素敵だか、難しいのだろう	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の実生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
16	・3Dデジタルサイネージを使用したリアルな体験 ・雨、風、空気がデジタルで感じられ、植物の成長に欠かせない環境を再現し体験できる施設の整備。 ・地球温暖化問題が進む数十年後の地球環境を疑似体験できる施設の整備。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文

		化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
17	○アクセスの案内をチケット購入時、または HP 他報道等で多重に行う。 ○乗降場の現地での案内表示を入念に行う。	来場者の平準化等の交通需要マネジメントの取組、ICT を活用し適切な情報発信を行うとともに、経路選択や決済などがスムーズに進む MaaS など、円滑な輸送対策についても検討します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
18	Instagramで花の景色を「じゃらんニュース」で掲載している方がいます。地元のインスタグラマーを使ったコンテンツを用いて映像で華やかに彩る（大画面で流す）(@princess.nao)さんの絶景スポットを参考にしてください。デジタルによる繊細な画素を音楽とともに演出すると面白いと思いますし、インスタグラマーが参加できる企画を検討してください。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
19	再生エネルギーを全体の使用量の 50%以上を太陽光発電を取り入れてください	エネルギーの供給に当たっては、再生可能エネルギーの活用 100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
20	直通バスを新横浜駅、横浜駅、東京駅からも出せないのか	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
21	飲食企画を柱の 1 つにするのは厳しいのではないかな 飲食も含めリモートで楽しめる企画も用意したらどうか	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

		ます。
22	計画の内容が薄すぎる。ターミナル間のバスのピストン稼働と自家用車で来場や観光バスでの来場など車でしか行けない場所なのに、それらが一斉に集中したときのことが何一つ書かれていない。地元の周辺道路に車があふれ出し、近隣の生活に支障をきたす。専用交通機関の設置がとん挫したせいだが、夏の湘南海岸の134号線と同様になることが予想される。主要道から直接アクセスできる道路の敷設や入場券と交通手段との併売等で入場者数を制限などを行わないとただでさえ混雑している保土ヶ谷BPは大混乱になる。近隣のズーラシアなどを参考に1日当たりの入場台数や送迎バスが近隣の駅ターミナルでスムーズに運用できる台数等のシミュレーションを行うべきである。1500万人などというばかげた数字とはかけはなれた結果になると思うが、地域に様々な負担をかけないような運営を求める。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
23	訪日外国人客は日本の鍼灸治療に興味を持っている人が多い。wellness展示の一環で日本独自の薬草やハーブを使った治療を体験してもらえコーナーがあると良いと思います。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
24	イギリスのウィズリーガーデンやシンガポールのガーデンズバイザベイのような国際的に誇れるようなガーデンを作りレガシーにしてほしいです。世界各地から植物を学びに来たくなる国際的な植物園を是非とも横浜に作って下さい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

25	最近の横浜の公園は花がきれいでもともと癒されます。この環境を未来へ繋げる博覧会であってほしいです。楽しみにしています！	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
26	2027年の園芸博覧会だけではなく将来的に全国、全世界からこの場所にもう一度来たいと思われるような環境・施設・会場があると良いと思われます。例えば東京都渋谷区や千代田区、静岡県沼津市のようにアニメの聖地となれば、幅広い年齢層で全国・世界中のアニメファンが訪れたりできる環境ができます。また、室内型ライブ会場等も作れば色々なイベントも開催できるし周りの地域活性化にも繋がって行く事が予想されます。是非とも御検討頂ければ幸いです。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
27	チケットイングシステム開発の抑制と顧客IDの活用を視野に、大阪で2025年に開催される万博のシステムとの共用をベースにすべき。大阪での万博終了後、国際園芸博覧会の開催まで1年強となるため、大阪での万博のチケットイングシステムの活用をベースに考えるべきだと思う。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
28	開催都市横浜で多くのイベントが開催されている都心臨海部でのイベント主催者と連携し、イベントメインコンテンツ×花（園芸博覧会）の企画を推奨。協力イベント主催者に対する助成も検討すべきだと思います。様々なジャンルのイベント来場者に対して、国際園芸博覧会の開催を認知させる。※園芸好きのコアターゲットだけではなく、サブターゲットをどう取り込みかがポイントだと考えます。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
29	国家イベントですが、開催都市横浜の魅力を会場の上瀬谷地区だけではなく、観光資源が充実している都心臨海部の魅力を伝える必要があると思います。花博に来場された方が、横浜の都心臨海部での観光も楽しんでいただけるように、都心臨海部の街の魅力を増大させる必要があります。	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。 本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
30	街を楽しむ多彩な交通（移動だけではなくエンターテインメント性のあるモビリティの充実（案：現状1台のBEER BIKEの台数を大幅に増やす、エンターテインメント性の高いバスの開発）もすべきと考えます。MUSIC CITY YOKOHAMAをよりリアルに感じていただける、ライブシーン	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上

	の場の創出、移動先の施設との連携による、顧客メリットの創出も考える必要があります。	のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
31	横浜市には緑があふれた多くの公園が存在します。四季の森公園のホタルとはよく足を運んでいるが、花博会場にも、世界各国のホタルが楽しめる自然のコンテンツの充実を考えるべきだと思います。ホタルシーズンが終わったら、テクノロジーを使った人工のホタルの演出なども検討すべきだと思います。自然をテクノロジーで表現するプログラムは、例えば日中に会場全体にかかる大きな虹を創出したり、夜は花をテーマにしたイルミネーションを充実させ、昼と夜両方を楽しめるコンテンツを作る必要があると思います（複数回、会場に足を運ぶことを考えるべきかと思います。※栃木県の足利フラワーパークの成功事例を参考にするとよいと思います。 その他、世界最大級のドッグランなど、園芸顧客だけではなく、犬を飼っている方々も訪れるようにするとよいと思います。1000万人の有料顧客の目標に向けたアイデアを広く公募で募集すべきだと思います。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
32	会場には横浜都心臨海部の地域企業共同で魅力を発信するビレッジを設けるべきだと考えます。開催都市としての横浜の魅力を伝えることが、そのあとのレガシーの継承にもつながっていくと思います。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
33	会場へのダイレクトな輸送手段が、相鉄が撤退した後不安です。 移動自体を楽しめるための、ロープウェイ（横浜エアキャビンのようなもの）を道路の上に整備したり、フラットな道路なので、BEERBIKEを複数台導入したり、ポジティブに今からできることを考え実行すべきだと思います。瀬谷駅など、主要最寄り駅事態が花博会場の最初のゲートとなる演出が必要だと思います。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。

34	横浜は、世界的にも音楽施設が集積している都市（都心臨海部）であり、音楽の街を推進しているため、新たな収益拡大のために、園芸博覧会の中で、音楽フェスを開催するのはいかがでしょうか。世界各国のアーティストにも声をかけ、「花」をテーマにした音楽フェスを開催。（アーティストは必ず1曲は「花」をテーマにした楽曲または「横浜」をテーマにした楽曲を入れる。なければ園芸博覧会に向け楽曲制作をする） 日本代表候補、「ゆず」「玉置浩二（ビルビードクラシックス）」など日本を代表するボーカルリストが良いと思います。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
35	観光地横浜を象徴する、みなとみらい地区のコスモクロック 21 を活用した、横浜国際園芸博覧会の PR を実施（コスモクロックで表現する花は、横浜の小学生・中学生から募集）花のデザインだけだと認知が弱いので、「2027 横浜花博（開催）」を流す。景観条例はあるのは認識しているが、広いエリアで観覧車は見えるので機運醸成としては効果的かと。 また、電車や、バス、シーバスなどの花博のラッピングを実施すると認知が広がると思います。	フェーズごとの重点ターゲットへの認知度向上や参加、来訪意向の向上のために広告宣伝等を行います。シンポジウムやイベント、ワークショップの開催、マスメディアや SNS への広告掲出などを含みます。 また、全国都市緑化フェアなど花と緑に関する大規模イベントや、各自治体で行われる広域の花と緑に関する取組を活用した周知も積極的に図ります。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
36	鎌倉の参道のように、環 4 の、桜を切らなでほしい	桜の伐採については、海軍道路（環状 4 号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。

37	川を暗渠にしないで、ほしい	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
38	再生可能なエネルギーで供給してほしい	エネルギーの供給に当たっては、再生可能エネルギーの活用 100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
39	全体概要 米軍跡地での花と緑の国際博覧会が開催されることは、世界的な政情不安のなかにあって、非常に意義あることだと思います。博覧会の開催によって、花や緑をキーワードにして、様々な分野の英知が結集し、新しい幸せのありようが具体的に提示され、世界に広がっていけば素晴らしいことだと思います。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
40	（グリーンインフラ計画） 上瀬谷跡地は非常に自然に恵まれた土地だと思いますが、博覧会のレガシーとして上瀬谷跡地全体がどうなっていくのかが不透明です。博覧会の会場の大部分を公園とすることのみではなく、上瀬谷地区全体からみた「グリーンインフラの実装」が必要だと思います。	横浜市では、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」（2020 年 3 月、横浜市）において、まちづくりのテーマに「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」を掲げています。当基本計画では、今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。

41	博覧会後の活用として、スポーツも楽しめる公園にしてほしい。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
42	博覧会は一過性のものですが、その後の土地利用が心配です。 テーマパークは不透明、公園は収益を生みません。 もっと確実に産業活性化につながる将来土地利用を検討すべきで、それに対応できる博覧会計画とする必要があります。	横浜市では、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」（2020年3月、横浜市）において、まちづくりのテーマに「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」を掲げています。当基本計画では、今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。
43	この博覧会で、各家庭で緑化の意識を高めるイベントの企画を提案します。一人ひとりの力は少ないけれど、日本や世界で住宅の緑化に取り組むことができると感じています。少しでも脱炭素に貢献できる博覧会としてください。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

44	横浜市が会場になるわけですので、博覧会で横浜市の観光を含めた魅力を発信し、これを機会に横浜観光や横浜市への定住意識の向上につなげる施策も併せて期待したい。	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
45	相鉄線の駅からのシャトルバスで、三ツ境駅からの発着便が多いとよいと思いました。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
46	阿久和南に駅を作るのでしょうか？まずバスターミナルなるものを作りゆくゆくは地下鉄の東戸塚～二俣川間の途中駅はどうでしょうか。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
47	有料来場者 1000 万人の根拠が弱すぎる、大渋滞になり、生活環境悪化、自然環境の負荷を高めるだけ。400 万人程度が目標として適切では？	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
48	開催場所が旧上瀬谷通信施設になっているが、横浜市としての経済効果、来場者の博覧会及び横浜への満足感向上を考えると、市臨海地区（みなとみら、山下公園）、特に山下ふ頭をサブ会場として利用し、横浜全体で来場者を迎えるべきと考えます。	会場については、旧上瀬谷通信施設で開催することが決定しています。会場外との連携について、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。なお、山下ふ頭については、新たなまちづくりに向け、再開発の事業計画策定等に取り組んでおり、令和 12 年（2030 年）頃の供用、令和 8 年度（2026 度）頃の事業化に向けて、取組を推進すると横浜市に確認しています。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
49	国際園芸博覧会に言及する際に「花博」と言った方が市民に伝わると思います。従って、略称については「花博」という単語を入れた方がよいと思います。	略称については、作成予定です。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

50	・花博の開催は賛成だが、開催後においても横浜市に資する計画をお願いしたい。その点、上瀬谷ラインの断念は維持コスト・費用対効果の観点から英断だったと思う。 ・現状、横浜インター周辺の渋滞は不可避だと考える。P & Rについては東名高速からの直結スマートインターを設置し、開催後も活用できるようにしてはどうか。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
51	開催期間が3月～9月の半年とのことであるが、本日も猛暑日予報、期間中の三分の一が7月8月、これだけの入場者数が見込めると思えない。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
52	夏の花木の維持管理がどれだけ大変か主催者は理解しているのか。	植物を常に国際園芸博覧会に相応しい良好な状態に保つため、巡視点検を基本に、灌水、花ガラ摘み、病虫害防除、施肥、剪定、除草、切り戻し・誘引、草刈り、植栽地内の清掃等の維持管理を実施します。会場面積が広く、多様な参加主体が存在することから、会場全体を維持管理できる体制を構築します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
53	仮に開催したとして従事するスタッフも気の毒であるし、熱中症による搬送者も予想される。	ご意見ありがとうございます。熱中症対策も考慮した安全・快適な運営サービスを目指します。
54	横浜で世界中から注目される催しが行われるのは、とても良いことだと思います。 花をテーマとした催しであることも、誰もが受け入れやすいと思います。	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
55	高速道路などは整備されていても、会場付近の道路は一車線しかなく、現在でも渋滞しているところが多い。周辺住民の生活に支障のないよう、会場周辺の一般道路も計画的に整備してほしい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
56	緑区民です。車で会場へのアクセスルートは、「東名高速」「国道16号」「横浜環状4号線」「国道246号線」がメインだと思いますが、すべて緑区を通っており、会場周辺での渋滞が、区内の渋滞を招きかねませんので、今から特に東名横浜	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の

	インター付近の道路改良を含めた対策をお願いします。	生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
57	園芸博覧会であるのだから、暑さ対策の主役は植物であるべきと思う。 木陰を十分に作ることや、多様なグリーンカーテンや施設の壁面緑化などに力を注ぐべきである。	グリーンインフラ計画の記載を追加しました。 既存樹木等による緑陰や適切な休憩施設の配置の検討を行うことに加えて、風や気温など会場の温熱環境のシミュレーションを行いながら効果的に風等を取り入れた快適な会場計画の検討を進めていきます。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
58	大阪万博の開催後、5年以上は、間を開けて開催した方がいいと思います。	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
59	・一時たりとも花を絶やさない。会場全体がガーデンネックレス状態になってこそ横浜の庭です。・季節の花だけでなく、日本各地の花が見られるように植栽を行う。北海道から沖縄まで、その土地特有の植物が見られるようにする（期間限定でいい）。・緑と農の共存であるならば、野菜による花壇作りを提示し、家庭菜園の新しい楽しさを提案する。・自然に優しい病虫害対策としてコンパニオンプランツを使った農園や植栽を見せる。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
60	・庭園でのおもてなしとして、和菓子・日本茶を楽しむ場の創出を。 ・食をテーマにした展示・催事では他分野連携の一つとして、「農と下水道」の「BISTRO 下水道」を扱う飲食店の設置も是非。 ・自然と DX の取組として、日本の四季を目・匂い・風・音など五感で体感できる 4D を駆使した自然館の設置を。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
61	・超未来的なトイレを設置し、最先端技術を採用した資源の循環を体現した取組を実施。（時短で汚水を処理し、その水は場内の花々への散水に、汚泥は高速乾燥等にて肥料として序場内の土壤に使用）	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

62	ワクワクする企画が多くて楽しみ。 みどりを身近に感じれそう。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
63	国際博覧会の開催に非常に期待しています。 市をあげて博覧会を盛り上げていくためには、どのような形で企業、市民が参加できるのかについて、早く参加の枠組みや費用の目安を示していただきたいと思います。 過去の国際博覧会を見てみると大企業出展が主で、中小企業や市民は案内、通訳、清掃などのボランティア参加のイメージが強いのですが、園芸博覧会として庭園や、農業、園芸がテーマであり、幅広い参加を募ることができるように思います。国際博覧会としてのレベルもあるのかもしれませんが、どこかの国際博覧会のように屋内出展（小）で80㎡程度で参加費用が1億円という感じだととても参加しようという気になれません。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
64	高齢者は長く日光にさらされているのは苦手です。花壇は日当たりの良い場所になるので、散策するだけで疲れます。日陰・木漏れ日程度の半日蔭のエリアや休憩場所を多く作って、隠花植物や観葉植物も鑑賞できるようにしてほしい。植物に関する屋内ギャラリーがほしい。リトさんの葉っぱの切り絵展をしていただけるとうれしいです。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
65	園芸や農業を学んでいる学校の生徒さんたちが活動できる企画やエリアがほしいです。どんな人が花を育てているのか興味があります。手入れしている人の姿があったほうがいいと思います。花の好きな人は、個人の庭に素敵な花を見かけると、声をかけて名前を教えてもらったり、ほめるのも楽しみなんです。ただ、花を觀賞するだけでなく、その裏には人が苦勞して育てていることがわかったほうがいいと思います。植栽団体や植栽企業・造園屋さん、庭師さんそれぞれがエリアを受け持って、その名称を花壇ごとにつけてほしい。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

66	会場が広いため、歩いて見て回るのには高齢者には辛いところがある。普段 車いすに乗るほどではないが長い距離歩くと足が痛くなってしまう高齢者は案外多く、貸し出しの車いすに乗るのは抵抗を感じるそうだ。若い人でも、長距離を歩いて回るのは暑い時期はつらく感じる人も多い。 そのためにシャトルモビリティを計画しているのはいいことだと思う。しかし、主動線すべてを回るわけではないのと、途中で止まって眺めたりすることが出来ない。そこで、1人乗り用の電動モビリティを導入してはどうだろうか。LUUP (https://luup.sc/corporate/) というところでは2023年に高齢者向けの低速の電動モビリティの実用を考えているようだ。LUUPに限らず類似の低速電動モビリティの導入は、それ自体がアトラクショナルな要素も持ち合わせ、老若男女問わず楽しむことが出来て、バリアフリー的にもよいのではないだろうか。	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
67	会場の東西南は住宅街が広がっており、保土ヶ谷バイパスや東名高速を利用しても、会場内への直接のインターを作らない限り、残り半マイルは住宅街に入らざるをえなく、周辺住民への影響は多大である。本来この地域での国際イベントなどは無理であるはずなのに、地域住民など考えない政治家により開催決定され、今更中止出来ないのであれば、有料入場者数1000万人の目標数字は大幅に下げてほしい。(300万人程度までに)	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の実生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
68	チェルシーフラワーショーのショーガーデンの植栽に20年以上携わった経験と、国内外で宿根草が主体の大規模な庭園（ピット アウドルフ氏デザイン）の植栽に携わった経験より申し上げます。 まず、コンペティションの出展作品、チェルシーフラワーショーで言うショーガーデンに当たるものの準備期間が短いです。27年春開幕から逆算すると、デザインが仕上がって植物の発注するのが2024年の秋、育成期間が24~28ヶ月を想定された方が良くと思います。宿根草の大規模な常設庭園となりますと、23年春に植物発注、23年秋に現場に植栽、そしてガーデナーが2年半かけて管理し、植栽後3年目の状態でオープンを迎える段取りが理想的です。また、ニューヨークのハ	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。

	イラインのような植栽の場合、花と緑の景観の出来はデザイン 50%、残りの 50%はガーデナーの技量に掛かっています。技術職のガーデナーを育成することも視野にお願いします。	
69	・安全で安心な博覧会開催のため、官民連携した警備体制の強化が重要と考えます。重要人物が来場時の警備体制は当然ですが、広大な会場であることから民間機企業の活力を効果的に活用した会場内の人的警備のほか、カメラ、巡回ロボット、ドローン活用など多角的な警備体制の充実が重要と思います。	本博覧会は、日本国内はもとより、世界各国から多くの参加者が集う大規模イベントです。このような大規模イベントの開催に当たっては、テロや自然災害、感染症など、予測し得ない様々なリスクが内在していることを十分に認識し、早期からリスクを洗い出し、計画段階から開催後まで、全ての参加者が安心して参加できる博覧会の運営に取り組みます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
70	京都大学森本先生が訴えている「雨庭」を施設全体に取り入れて欲しいです。環境配慮、減災防災、新しい街づくりでは欠かせないと思います。ぜひとも雨庭構想を随所に使っていただきたくお願いします。	グリーンインフラ計画に当たっては、既存樹木等による緑陰や適切な休憩施設の配置の検討を行うことに加えて、風や気温など会場の温熱環境のシミュレーションを行いながら効果的に風等を取り入れた快適な会場計画の検討を進めていきます。また、雨庭についても検討しています。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
71	花博マスコットにはアゴヒゲアザラシのタマちゃんをつかうべきです。タマちゃんは 2002 年に横浜市にきて、帷子川に住み、横浜市西区の特別住民票を交付されました。大都会にきたアザラシを自然の象徴とし、横浜市、神奈川県で行われる花博象徴にし国内外に大都市と自然の調和のアピールをおねがいします。	フェーズごとの重点ターゲットへの認知度向上や参加、来訪意向の向上のために広告宣伝等を行います。シンポジウムやイベント、ワークショップの開催、マスメディアや SNS への広告掲出などを含みます。 また、全国都市緑化フェアなど花と緑に関する大規模イベントや、各自治体で行われる広域の花と緑に関する取組を活用した周知も積極的に図ります。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
72	花博までの交通上瀬谷ラインは延期と聞きました。花博まで開通間に合わずあとから作るにしても花博会場と瀬谷駅までだと利用者が限られます。横浜線や田園都市線まで繋げば会場まで相鉄、田園都市線、横浜線などが使え便利になり、かつ横浜市西部交通空白解消します。 上瀬谷ラインを通勤通学や会場跡地まで使えるようになればレガシーにもなります。	ご意見いただきありがとうございます。横浜市と共有し、今後の参考にさせていただきます。

73	「里山の営みに通じるエネルギーの地域内循環など、日本ならではの自然とともにある持続可能な都市のあり方を示していく。」ために、区域内や周辺の樹林地、公園、街路樹等の更新可能エリアを 20～30 区分にゾーニングし 20～30 年ごとに伐採更新する管理計画を立案し、生物多様性、安全性や快適性の向上を図りつつ、伐採材をバイオマスエネルギー等として活用するプラントを整備し、未来都市型里山管理を試行実施して、国内外に提案してはどうか。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見は横浜市とも共有させていただきます。
74	冒頭に里山や生態系、地球レベルの環境問題が挙げられたにも関わらず、内容は環境にメリットのない 1,2 年草の花苗の「ローテーション」花壇、大量消費・大量破棄型の園芸（全国規模の供給体制）が提案されて、会期後はほとんど全てのものが撤去の予定が組まれています。産業振興に徹するか、未来へのメッセージとして SDGs や環境に配慮した「オープン植栽」や樹木を主体（長期的に管理していく）にするか決めた方がわかり易いと思います。とりあえず全部欲張った、一貫性のない構想にみえます。東京 2020 の開会式のよくない評判を思い出しました。反対に産業振興に振るなら、会期後の次の開発事業を明らかにし、1、2 年草の毛氈花壇の理由を説明し、割り切った方が成功すると思います。あれもこれもが一番良くない。一貫したコンセプトが分かり易い方が、人の心を動かすイベントになると思います。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
75	是非地元の人たちが憩える公園やスポーツ施設の建設をお願いいたします	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和 4 年 6 月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
76	世界の国々、国際機関による出展を楽しみにしています。そのあたりをもう少し詳しく提示していただけると良いと思います。	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら、具体のコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画

		等も適宜検討状況を公表していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
77	せっかくの「園芸博」なのですから…。 1.花粉症 にも負けないぞ！ ・花粉症の方も一緒に楽しめるゾーンの創出 ・花粉症減少に貢献する林の提案 2.コロナ禍のマスクを取って、オゾンの深呼吸を ・マスクをしなくてよい野外休憩所やベンチの配置提案 ・コロナに負けない体力づくりの機器の展示 3.こんな樹木墓ならうれしい！ ・狭い地球を占有し、災害に弱い家族墓より、樹木墓が普及するきっかけに。 4.地元住民の「花いっぱい活動」の紹介スペース ・私の住むマンションでは、住民が「花いっぱい活動」を推進しています。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
78	当該地の自然を活かした、若い世代も惹き込むような仕掛けを検討ください。例 https://www.enjoytokyo.jp/article/112150/	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
79	市内でも昆虫や植物の宝庫である場所です。エコツーリズムを取り入れて、在来の生き物サンクチュアリーを区域として設けてください。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
80	ハンデのある人も楽しめるような、足裏や手触り、香りの散歩ゾーン、車椅子や高齢者もゆったり座って楽しめるような、のちに活用できるコロッセオ的な野外シアターと子供のにぎやかに移動式遊園地を楽しむゾーンをエリア分けして作る。チームラボに夜の演出をしてもらいたい。オムツ替えスペース、授乳室の完備。マルシェの開催。駐車が会場を囲うようにして、それぞれの目的に合ったエリアに駐車できるようにして欲し	運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

	い。	
81	園芸は文化の一つであるとは思いますが、真の園芸は自然を壊さないものだと思います。基本計画の中には書かれていなかったように思いますが、駐車場のために相沢川を暗渠にする計画があります。これでは上瀬谷の自然は根本から壊されます。相沢川とその周辺の里山を残すための計画変更をお願いします。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
82	上瀬谷跡地には、旧日本軍の戦跡が残っています。上瀬谷が海軍の火薬、爆弾、毒ガスの貯蔵施設だったことを後世に伝えるのは私たちに課せられた義務です。そのことを平和のための花博の最初に述べる言葉に入れて欲しいと思います。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
83	越後妻有里山現代美術館キナーレのような、現代アート拠点をつくってください。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
84	食体験事業などは、横浜市の地産地消を PR する良いチャンスだと思います。	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

		ます。
85	プロモーションの中で「ポケモン」や「ガンダム」との連携を図ってはいかがでしょうか。 日本からはじまり、世界での認知度も高いコンテンツを活用することで、国内外により効果的、効率的に発信ができるようになると思っています。 博覧会のコンセプトを踏まえると、「ポケモン」との親和性が高いのではないかと思います。 今後検討されるテーマパークに関しても同様に、外資系のコンテンツよりは国内の文化、コンテンツと積極的に連携を図ることが調整が円滑に進むだけでなく、日本のブランド力向上や国内GDPの成長にも寄与すると思います。	フェーズごとの重点ターゲットへの認知度向上や参加、来訪意向の向上のために広告宣伝等を行います。シンポジウムやイベント、ワークショップの開催、マスメディアやSNSへの広告掲出などを含みます。 また、全国都市緑化フェアなど花と緑に関する大規模イベントや、各自治体で行われる広域の花と緑に関する取組を活用した周知も積極的に図ります。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
86	コミュニティサイクルや自転車タクシーを活用し、植物を植えたサイクリングロードをつくるなど、自然を楽しみながらアクセスできる工夫もあるといいと思う。 また、新交通システムは頓挫したということだが、LRTで何とかならないだろうか。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
87	「国際」園芸博覧会ということなので、色々な国の展示があると思うのですが、「国際」というキーワードで連想される素敵さや面白さが良くわからないので、ワクワクしにくいです。 色々な国の人が集まると思うので、「園芸」から始まる国際交流・相互理解や国際的な共創（市民レベル、企業レベル）、平和といったこともテーマになると面白いかも、と思いました。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

88	博覧会開催の意義は書かれていますが、現時点では、博覧会のコンテンツが未定であるため、ぜひ行ってみようという気持ちになりません。 そこで、まずは『2027年』『横浜』『国際園芸博覧会』というキーワードを徹底的にPRする戦略（愛称、マスコットなど）に特化するべきだと思います。 次に、北側で展開する観光・賑わい地区における具体的な開発計画のコンセプトを花博開催の意義と連携させて、一体的にPRするべきだと思います。 その時点（1年以内後くらい？）で、やっと、行ってみようかなという気持ちになると思います。 博覧会開催期間は半年しかないので、博覧会だけPRしても一過性のイベントと思われるだけです。郊外部の豊かな自然環境等が、横浜市民の生活の一部となるように（例えば年に1回は必ず訪れたいように）開発計画を作成してほしいです。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
89	是非、2027年国際園芸博覧会を成功させてください。 開催意義にあるような、 新型コロナウイルスをはじめとした、目に見えないウイルスへの脅威やウクライナ侵攻のような人間社会の紛争による戦争の脅威にさらされて、先が見通せない何とも言えない「不安感」が地域社会に広がっています。 このような時期に、身近な自然に触れることのできる幸せ、花の持つ力の重要性を再認識することができる博覧会を成功させていただくことは、十分、開催意義があります。 ウクライナの人々が愛している「ひまわり」の持つ力 人々を気持ちを「明るく元気にする」ひまわりの力を再認識したいと思います。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
90	既に幸せを創る明日の風景があり動植物の幸せがある 環境アセスで”大自然の全滅”と指摘された本計画はAIPHやBIEの理念に反しており「開催できるような計画ではない」と今すぐ取り下げろ。東京五輪が”お金のかからない、コンパクト”等と嘘を	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	ついたのと同じだ。 地球・横浜・上瀬谷のために開催をやめよ	
91	最低限、下記を解決せよ 1 渋滞 閑古鳥がいないとしても、会期前中後に地域の交通事情悪化は避けられない	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
92	2 来場者予測が荒唐無稽 本年開催中のアルメール花博が入場者が少なく、市議会に引責辞任が出ている状態を参考にせよ	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
93	3 輸送計画が破綻 計画通りなら隣接市も含めて交通麻痺だ。バス等は数時間遅れ、自家用車は周辺駐車場に入庫できても会場に着かぬ	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
94	4 赤字運営だけでなく建設においても赤字は博覧会協会が責任をとり、決して横浜市民の血税に手をつけないことを確約することこの花博は人気の有無の前に詰んでいる	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
95	花だけでなく、農業や自然などをテーマとして扱うことを評価したい。食料危機や気候変動による自然災害の増加などが懸念される現代において農業や自然との関わり方について具体的提案がされる場になるのを期待する。	「幸せを創る明日の風景」のテーマを実現するために、主催者、主催構成者、公式参加者、一般参加者による取組の切り口として、「自然との調和」「緑や農の共存」「新産業の創出」「連携による解決」の4つのサブテーマを設定します。日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会に向けて、一人ひとりが心に「幸福感を深める」ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景であるという思いを込めたテーマを実現していきます。いただいたご意見については、

		参考にさせていただきます。
96	また、展示という主催者側からのアプローチだけでなく、参加者が主体的に関われる仕組みをぜひ検討していただきたい。素晴らしい花博が故郷である横浜で開催されることを願っている。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
97	博覧会はお祭りでもあるが、新しい技術や取り組みに触発されて新しい事業展開が期待されることが大切であると思う。今回の博覧会では、協会が取り組む新たな事業としてビレッジが提唱されており、個々のテーマに関連する企業が集まる取り組みは非常に面白い。 博覧会への参加についても興味があるが、零細企業では体力も知恵も不足しており、ハードルが高すぎるのが実状である。企業が出展を企画する段階から、協会に、興味のある企業が出会えるプラットフォームがあって、出展に向けた企業のマッチングまでやって頂けると市内零細企業者にとっても参加しやすくなる。ビレッジは、出来合いのものを持ち寄る場ではなく、新しい事業が展開する揺籃の地となってほしい。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
98	世界から参加を求める園芸博であるのに、「Society5.0 が実現した社会」などと日本限定のガラパゴス的表現がされていることを残念に思います。 また、横浜で園芸博の開催を検討した当初は、単なるイベントを目的に実施することではなかったはずなのに、未だにイベント開催の内容にとどまっているように感じます。大阪万博が控えていて、世界に向けての社会運動を別途示すことは難しいのかもしれませんが、レガシーを語るのではなく、園芸の視点で、開催までのこの5年で何に取り組むのか、示すことが大切だと思います。開催意義を感じる人が増えなければ、賛同する個人も企業も増えないと思います。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

99	49 頁に緑×DX のイメージイラストがありました。DX を市の方針にしている横浜市で開催されるイベントなので、従来のイメージを大きく覆す展開を期待しています。 例えば、リモートワークが標準となった時代を開催する博覧会とはどのようなものであるべきか？と問うた時、リモートでは感じることもできない「木漏れ日」など、体験すべきリアルの種類と価値を突き詰めて事業企画してほしいと思います。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
100	日本の伝統×野花 で野点のワークショップはいかがでしょうか。市内に茶道の先生にご協力いただき、野点のお点前を見ながら抹茶＋お花のねりきりを外で楽しんでいただくというものです。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
101	こちらの資料にぎっと目を通しました。これまで、なぜせつかくの自然を切り崩してまで上瀬谷で園芸博を行わなければならないのか、全く理解できていませんでしたが、読んで更にわからなくなりました。グリーンインフラが、、といいつつ、今ある緑多き大自然を壊して開発してまでして、園芸博を行うことは、本末転倒という言葉以外に何もいうことはありません。この気候変動の中、カーボンニュートラルが、、といいながら、冷房もつけなくていいような屋内施設を建設可能なののでしょうか？二酸化炭素排出なく、会場建設と維持が可能なののでしょうか？矛盾していませんか？していないのなら、市民が理解できるように分かりやすく説明して下さい。ただ、園芸博を行うこと自体に意味があるのだとすれば、参加者が集うメイン会場はみなとみらいのパシフィコとして、上瀬谷は中継してバーチャル会場にして、今ある自然をそのまま残す、それならば理解できます。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 また、エネルギーの供給に当たっては、再生可能エネルギーの活用 100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

102	全てに置いて不必要であり採算が取れる見込みがない。今の里山での生態系は壊せば人工的に修復は不可能。横浜市の財産 宝である場所の環境保全活動こそレガシーではないか？一過性の祭なら みなとみらいでイベントとして開催すればいい。壊した環境は戻せない。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。 会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
103	横浜ローカルイベントではなく全国区であり全世界的なイベントです。それ相応の認知度が必要です。有効な方策として提案します。1. 公式マスコットキャラクター、公式アンバサダーなどによる、プロモーション動画を作成し、公式 SNS で公開。2. プロモーション動画は単発で終わらず、定期的に新作を追加していく。可能であれば連載、連続ものとして蓄積する。3. プロモーション動画への QR コード等、各方面で露出。ポスター、チラシ、印刷媒体、Web 媒体他。4. プレイベントは告知、実施とも、動画と連動して行う。以上、この方策をできるだけ早期から開催ねんまで継続的に実施するには、緻密なプランが必要です。流れに乗ってしまえば、費用対効果は相当に高いと考えます。	本協会の活動を効果的に伝えるため、会場で展開されるコンテンツの情報や事業の進捗を適時に発信します。 多様なステークホルダーに対する効果的な情報プラットフォームの役割を担う公式サイトの運用や、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）による従来のマスメディアでは接触ができないステークホルダーへの情報伝達に加えて、公式ロゴマーク、公式マスコットキャラクターの作成、公式アンバサダーの起用等による情報発信を行います。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
104	○会場駐車場への入口の計画について、入庫待ちの車による渋滞により生活道路に車が入り込むことがないようにしてほしい。 ○会場周辺の道路だけではなく、瀬谷区内の道路全体が渋滞する可能性がある。それにより、生活道路に車が入り込むことが心配だ。戸塚方面から	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を

	の車の動線も検討してほしい。	目指します。
105	○三ツ境駅、瀬谷駅ともに特急が停車しない。園芸博開催時だけでも停車することは考えていないか。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
106	【リスク管理計画】 ○事件が起きることがないように、警備体制をしっかり整えてほしい。	本博覧会は、日本国内はもとより、世界各国から多くの参加者が集う大規模イベントです。このような大規模イベントの開催に当たっては、テロや自然災害、感染症など、予測し得ない様々なリスクが内在していることを十分に認識し、早期からリスクを洗い出し、計画段階から開催後まで、全ての参加者が安心して参加できる博覧会の運営に取り組みます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
107	園芸博について何のために行うのか等、説明会等で瀬谷区民にしっかりと説明してほしい。その上で瀬谷区民の意見を聞いて計画を進めてほしい。	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら、具体的なコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画等も適宜検討状況を公表していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
108	シャトルバスの発着場に中山や長津田は難しいのでしょうか。グリーンラインや JR の快速を使用する場合、大変便利で来訪者数の増加や自家用車の利用減が期待できるのではないのでしょうか。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
109	園芸博を横浜市で開催することは大変意義があると思います。 しかし、会場周辺は現在でも慢性的な渋滞が発生しており、周辺住民としては交通の問題を大変危惧しています。 北側は保土ケ谷バイパス上川井インターから環状 4 号交差点まで、南側は旧厚木街道から本開発区域まで。 輸送計画では主要駅からシャトルバスやパークアンドライド等の手段を検討と書かれていますが、現在の交通量より減ることは想定できません。 そのため、現在の交通量（交差点渋滞長）が開発	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。

	後どのように変化するのか、新たに整備する道路にどの程度転換するのか等、定量的な数字を示していただきたいです。(園芸博後の将来的な開発時を含めて) また、本開発区域を経由した主要駅間を結ぶ路線バスの検討はされていますか。	
110	瀬谷駅発着の、大量輸送の期待できる新交通が間に合わないと明らかになっている段階で、開催時期を2027年のままにしているのが心配。 八王子街道拡幅や瀬谷地内線整備の工程も厳しそう。 新交通、周辺道路の整備が実現する段階まで、コロナにより会議が制限されなかなか進まない状況もあるので、開催時期をずらしても良いのではないかと思います。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
111	国際園芸博覧会の開催に賛成します。コロナのこともあり、地域経済がガタガタになりました。地域の復興のためにも同意します。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
112	あと渋滞解消のため、道路を2車線から4車線に拡幅する事を聞いたのですが、整備に着手するのはいつ頃になりますか？ 博覧会の期日までに間に合うのかを考慮すると早い方が良いと思います。	横浜市より、八王子街道は令和5年度に着手し、令和10年度完成を予定、環状4号線は園芸博までの完成を目指しており、着手時期は施工計画と合わせて検討していくと聞いております。貴重なご意見ありがとうございました。
113	供給エネルギーについて、「再生可能エネルギーの100%活用を目指す」との事ですが、会場内の電力は、電力会社の送電網に接続しない「オフグリッド」を目指して欲しいと思います。 また、「オフグリッド」が難しくても会場内の電力自給率（発電量と消費量）を大々的に広報して欲しいと思います。	エネルギーの供給に当たっては、再生可能エネルギーの活用100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

	なぜならば、広大な会場の照明（夜間も営業する ならライトアップやイルミネーション）や空調・ その他の電力を供給する為には、相当数の太陽光 発電・風力発電・蓄電池が必要と思われます。 その相当数の発電・蓄電機器を園内へ設置し、「花 き園芸・造園・農」の景観とマッチングさせる事 で、「風景・景観の最適化」に繋がり、「環境共生 社会への挑戦」が体现出来るのではないでしょ うか？ 尚、風力発電機は小型（0.6～1.5kw）のものを積 極的に活用する事で、国内需要の低い家庭用風力 発電機の導入契機にも繋がると思います。	
114	過剰な収入見込みで、赤字は明白、今中止した場 合の賠償金等の比較を、してもらいたい。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定 し、適正に管理することにより、着実な運営を行 っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただ けるよう努めてまいります。
115	P34 2.1.1 花き園芸・造園・農における国際園芸 博覧会の意義で①花き園芸文化の発信・浸透をあ げている。該当するのが p39 2.3.3 コンペティシ ョンで、庭園関係のプランは多いが、園芸の認識 や意義は唱えても具体例に乏しく、園芸関係者が 関わっているプランとは思えない。 オランダで開催されたフロリアードには2回、 英国のチェルシーフラワーショーにも出かけて るが、どこも開花調節をして多種類の植物を咲か せ個々の植物の魅力をアピールし、販売も行い、 趣味家が大喜びする内容だった。プロの園芸の技 を体感できるのか疑問に思う。花壇のような群落 美としての庭園ばかりが目立つ内容で、造園家の 意見が強い計画書に思える。かなりの予算を費や して実施する大イベントなので、日本の園芸の過 去、現在、未来につながる企画を再考して欲しい。 計画的に花を咲かせるには園芸関係者に早めに 相談しないと材料調達は不可能である。	コンペティションの具体的な内容については、今 後詳細に検討し適時公表してまいります。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
116	駅から会場までの輸送手段としてシャトルバス を計画しているが、自動車での参加者も見込ま れ、渋滞の発生は必然と思われます。駅から離れ た当会場でこのような催しを行うこと自体に無 理があります。花博覧会は中止するべきです。市 政としてやるべきことはもっと他にあると思い ます。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、 自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を 念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画しま す。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入 など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の 生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を 目指します。

117	五年先の開催である博覧会の計画にしては、既存の園芸や景観を主体としたイベントの色合いが強い。脱炭素に向けた農業や園芸の未来を体験できる会場、水戸偕楽園でチームラボが実施したデジタルアートと自然や水と緑の融合などを感じられるスペースが少ないように感じられる。1970年大阪万博のような農業、園芸、造園、都市づくりの分野の未来の姿を体験できる会場計画を加えてもらいたい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
118	会場が基本的には上瀬谷エリア1か所となっているが、横浜市全体の未来に向けた園芸、農業、水と緑の方向性を示していく役割も担っている市費を投入する事業である。市内18区全体で、市民全体が身近に体験できる公式のタイアップイベント会場を設けてほしい。	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
119	本博覧会のアクセス計画自体が次世代の目指すべき環境性能を備えているものにしていくべき。会場近くに再生可能エネルギーで賄われるスマート・インターチェンジを実装し、スムーズなアクセス自体が低炭素社会の形成に寄与すること。パーク・アンド・ライドのエリアを数多く設定し、そこから会場までのアクセスは電気バスやFCVバスなど低炭素のシャトルを実装するようにしてほしい。	来場者の平準化等の交通需要マネジメントの取組、ICTを活用し適切な情報発信を行うとともに、経路選択や決済などがスムーズに進むMaaSなど、円滑な輸送対策についても検討します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
120	4章 会場計画 会場内モビリティについて、自動運転技術の導入を積極的に検討する内容を入れ込んでほしいです。	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

121	5章 運営計画 暑さ対策（熱中症対策）については、現実問題としてかなり重要であり、今年もかなりの暑さです。 日本の湿気を伴う独特な暑さに不慣れな外国の方や、特に高齢者や子どもなどの来場も多く見込まれることから、入念な対策をお願いします。（他都市や、他のテーマパークの最新の対策を参考にしたり、特殊な地面素材を使ったり、休憩場所・給水場所のかなり多く設けたり、子ども向けには、じゃぶじゃぶ池など逆に遊べる場所があってもいいかもしれません。色々と検討をお願いします。） 5年後、楽しみにしています。	グリーンインフラ計画の記載を追加しました。 既存樹木等による緑陰や適切な休憩施設の配置の検討を行うことに加えて、風や気温など会場の温熱環境のシミュレーションを行いながら効果的に風等を取り入れた快適な会場計画の検討を進めていきます。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
122	瀬谷の道路はもともと、渋滞しています。その上、園芸博が行われたら、瀬谷の街はマヒしてしまいます。 国道一号から瀬谷へのアクセスを強化してください	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
123	会場近辺だけでなく、旭区と瀬谷区内全域の渋滞対策をしていただきたい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
124	外国の方も多く来られることから、日本の花卉や庭園のすばらしさを堪能していただけるような博覧会としていただきたい。また、このようなイベントにおいては、往々にして現存する樹木を伐採してしまうことが多いが、最小限に留めていただきたい。	開催意義として「日本の花き園芸文化・造園文化の再評価と発信」や「伝統的な花き園芸・造園技術の保全・継承」等を捉えており、今後これらの取組を推進していきます。 また、会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

125	2022 年 8 月現在、来客者の輸送手段さえきまっていない状況であり、道路幅を車道、歩道、自転車道を含め 18m から 31m に拡幅すると聞いていますが、該当道路にある住宅や店舗移転計画などはどうなるのでしょうか？ 本来私は絵に描いた餅状態の収支計画での博覧会自体反対ですが、国の事業として決まっていることは今変更できないでしょう。ただ例え博覧会で損失が出て、それ以降建物や樹木等の維持管理など永久にかかる費用を出ない工夫をしてもらいたい。開催終了後も植栽管理などの業者は喜ぶでしょうが、負担する市民のことをよく考えてもらいたい。	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
126	私が希望するのは、広域避難場所として、少なくとも現在ある海軍広場以上の面積の平坦な原っぱをこしらえて欲しい。	横浜市では、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」（2020 年 3 月、横浜市）において、まちづくりのテーマに「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」を掲げています。当基本計画では、今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。
127	広い会場を短時間で移動できる直線メイン路の設計 メイン路中心にラウンドアバウトを採用。 主の園路色分け明確化。 メイン路の地下に共同溝、インフラ整備。 ラウンドアバウトで配管振り分けが明確化 メイン路整備で工事の円滑化を図れる。	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
128	小学生などの団体や一般参加者（親子） 草花などが植えられた正方形の小さな柵を指定された柵の箇所にはめ込んで いく。すべての柵の中が草花の柵で埋められたら絵が出来上がる。 ドローンで撮影スクリーンで見れる。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

129	駅や会場内にエスコート役を配置。緊急時、救護施設、搬送スタッフなど共有レシーバで対応。AED備えた救護施設は主園路に数か所設置。救護施設にはドクター常駐。赤色灯付けた救急自転車配置。メイン救護施設裏に緊急車両専用通路をフェンスで囲い整備。自転車タクシー、人力車優先路整備で活用し、高齢者の移動時の転倒のリスクを軽減する。	本博覧会は、日本国内はもとより、世界各国から多くの参加者が集う大規模イベントです。このような大規模イベントの開催に当たっては、テロや自然災害、感染症など、予測し得ない様々なリスクが内在していることを十分に認識し、早期からリスクを洗い出し、計画段階から開催後まで、全ての参加者が安心して参加できる博覧会の運営に取り組みます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
130	今日、自然と共生した社会生活の重要性が様々な場面で取り上げられております。その様な状況下において開催される国際園芸博覧会が日本全国また全世界の人々に自信を持って参加して頂ける博覧会になることを大変期待を寄せております。エンターテインメント性や商業性の強い事業に傾倒することなく、また一過性の事業とならないよう未来社会における緑や花の重要性を確実に発信して頂きたいと思ひます。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
131	園芸博覧会会場の整備が、地域の自然環境を損なうようなことはあってはいけません。地区内の自然環境をできる限り保全・活用し、さらに将来的にも自然との共生の場等として活用できるよう取り組んでほしい。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
132	この地域で生き続けている大きな木をその場所で、シンボルツリーとしてそのまま活用できるようにデザインし、閉会後も公園のシンボルとして継承されるようにしてほしい。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
133	園芸博覧会であるので、暑さ対策の主役は植物が担うべき。充分に木陰を作ることや、施設での多様なグリーンカーテンや屋上・壁面緑化など、植物の効果を来場者へPRすべき。	グリーンインフラ計画の記載を追加しました。既存樹木等による緑陰や適切な休憩施設の配置の検討を行うことに加えて、風や気温など会場の温熱環境のシミュレーションを行いながら効果的に風等を取り入れた快適な会場計画の検討を進めていきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

134	特に、生産や維持管理に関しては、地元の横浜市内及び神奈川県内の生産者が担うところが大きいと思うので、早い段階から十分な協力が得られるような体制を構築してほしい。	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
135	神奈川県が育成したサルスベリやスイートピーなど、県内で育成された植物を是非展示してほしいが、生産組織が大きくないため、早めに必要量等を提示し、準備を促す必要がある。	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
136	特に、他県から調達した大型の樹木類の維持管理にあたっては、地域の植木生産者などのマンパワーとバックヤードとして利用できるほ場等を早急に確保する必要がある	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
137	樹木類や、宿根草など、現地環境での順化・育成に対応できる地域の生産者の組織化が急務と考える。	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
138	樹木類のバックヤードでの養生なども含めた維持管理、地域ボランティアの指導、さらに、植物残渣等の適切な処理など、地元の生産者の協力が必要であるので、協力が得られるような体制づくり望まれる。	いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。なお、植物を円滑に搬入・検収・施工者への分配・引き渡し等を行うため、「植物バックヤード」を会場近隣に設置し、調達から施工まで円滑に行えるバックヤードの運営を行います。
139	概念やコンセプトは多く載っているが、具体的にどんなことが行われるのかが全然わからないので、詳細な計画などを早めに公表してほしい	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら、具体のコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画等も適宜検討状況を公表していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
140	海軍道路の桜並木の伐採について反対の声が上がっていると5月の報道で拝見しました。メインテーマ「幸せを創る明日の風景」とあります。地元住民の声を真摯に受け計画に反映しなければ「明日の創造」とは名ばかりになってしまうでしょう。コンセプトに「風景・景観の最適化」とあります。新たな技術で取り入れ、風景を守っていくことがまさに今回のチャレンジの意味になるのではないのでしょうか？染井吉野の寿命の問題があります。計画に「2.1.1 国際園芸博覧会の意義③ 遺伝資源の保全」とありました。染井吉野に代わる品種があると聞いています。この機会に全国に向け、代わる桜の苗木の配布や保護活動ができれば「日本の心」を横浜が守ったということにはならないのでしょうか？30年後孫に向かって「この桜はお前の爺さんが守ったんだ」というようなことになるのではないのでしょうか？Y150 の二の舞に	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしているとの横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。

	ならないようお願いします。	
141	申し訳ないのですが、全く行ってみたいと思わないです。 見せるためだけのものでは人や地域に根付かず、お金を無駄に使うだけだと思います。 子どもたちが安全にのびのびと遊べる里山を作ったり、車椅子の方や高齢者でも緑を楽しめるショート散歩コースを作ったり、来場者が楽しめる、ゆったり緑を楽しめる空間でなければ人は集まらないし、税金の無駄使いになると思います。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。また、様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
142	民間の負担が謳われているが、2025 年大阪万博も民間の寄付は 6 割程度とニュースで見た。国際園芸博は平気なのか。 実際に建築資材等の高騰も見られ、資金計画より事業費が膨らむことも予想される。 そのような中、資金計画が予定どおりいくのか。 民間もコロナ禍で厳しい業績が続くので民間の寄付が集まるのだろうか。寄付だけでなく多様な調達を検討し、資金調達を安定させて開催を成功させてほしい。 全体計画のなかでグリーンインフラの実装などを掲げるのであれば、新たな調達手法として昨今のグリーンローンなども活用して資金調達の多様性を図るべきではないか。 グリーンローンの活用を対外 PR することで民間からの寄付を集めやすくすることにも繋がらないか。民間の SDGs や脱炭素、グリーンの意識は高いので、「グリーンローンで調達して開催する国際園芸博へ是非、民間の皆様も資金協力をしませんか」と PR できたりしないだろうか。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、協会運営が赤字とならないよう、着実な運営を行っていきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

143	昨今、上瀬谷町に越してきたものです。 子育て中です。 越してきて思ったことは何より交通が不便。食料品、日用品等の買い物は車がないと無理です。 花博はとっても楽しみにしております。 その後も楽しめるように子供たちが遊べる公園、サッカーや野球ができる場所、そして小さくても良いのでスーパーやホームセンターがある ととっても便利になると思います。 交通手段も駅まではバスしかありません。 都内、南町田グランベリーパークや瀬谷駅まで繋がる電車も作ってほしいです。 本当に越してきて上瀬谷は不便で困ってます。 どうか地元民の意見を少しでも取り入れていただけるとうれしいです。	いただいたご意見は、横浜市政に関するご意見と受け止め、横浜市に情報共有させていただきます。
144	昨今上瀬谷へ越してきた子育て中のものです。 北海道のガーデンを拝見しました。 上瀬谷もこんなふうに素敵な空間ができれば良いなと思いました。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握しそれらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
145	ピクニック、BBQ、グランピングができれば集客にもなると思います。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
146	ただ、交通が不便なので地下でもゆりかもめのようなものでも何かしら駅を作った方が来やすいと思います。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
147	地元でとれる野菜や果物のお店やレストランも良いなと思います。	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じる

		じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
148	海軍道路の桜の伐採について、問題視している方がいますが、植栽されて既に何十年も経過しており、遅かれ早かれ植え替え等の対応が必要となると思います。先日も、街路樹が倒れ自動車を直撃したとのニュースがありました。 桜の再生については、横浜市が園芸博覧会後に整備される公園等で行うとの話をお聞きしましたが、園芸博覧会においてもできるだけ桜を用いた会場計画としてください。楽しみにしています。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。
149	花き園芸文化の振興のために、絶滅危惧種のいる貴重な自然を壊し、40年という木としてはまだまだこれからの桜並木を壊すのは、本末転倒と言わざるを得ない。山下ふ頭の再利用に困っているようですから、山下ふ頭でおやりになればいいのではないのでしょうか。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。

150	上瀬谷の地に新たに風景・景観を作るのも、新たにチャレンジする事業も必要ございません（地権者としては利用したほうがお金になるのでしょうか）。電線もなく気兼ねなく風揚げが可能な土地は横浜市でも貴重です。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
151	海軍道路の桜並木を切って拡張するのだとしても早い時期に植えられた南側区間は伐採、拡張しないので、中途半端な計画である。またこれから導けることは、桜の伐採は山中市長や川口議員の言うような桜の老木化が理由ではないことが明白であるし、実際樹木医によって延命可能である旨が報告されている。またパークアンドライドをするにしても周辺道路は生活道路であり拡張も困難、見通しほどの人数が集客できたとしたらパンクしてしまう。パークする場所として戸塚や町田も検討されているが、そもそも町田は東京都であり許可は得られるのかということ、またどちらもパークできるような場所はないと思われる。とにかくインフラが貧弱である。横浜の臨海を中心部とは交通アクセス事情のわけが違う。これは上瀬谷ラインが頓挫するということ以前の、どうやって瀬谷にたどり着くのかという問題である。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の実生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
152	資金計画がたった1枚ということにあきれている。収入だって、補助金なのか、借入金なのか。債券なのか、寄付金なのか。運営費だって、人件費なのか、広告宣伝費なのか。そういったことが全く分からないどんぶり勘定である。現在噴出している Tokyo2020 のような不正が行われているとも限らない。開示請求が及ばない組織であるからこそ丁寧な説明責任を果たすべき。 また収入における集客数にも疑義がある。ディズニーランド以上の集客が、たった半年で、上瀬谷に集まるとは到底考え難い。損益分岐点となる集	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	客数がほぼ見込みの数となっている時点で事業として失格である。赤字の補填は誰が何と言おうが横浜市にのしかかるのであり、本年くしくも山中市長が「歳出改革元年」と言っている中で横浜市にさらに財政負担を強いるような計画は市民として「横浜市民もうやってられない」という言葉に尽きる。	
153	リスクの洗い出しが不十分な可能性がある。またリスクの分析及び対策が一切記載されていない。これだけのプロジェクトなのにこの段階で一切の分析（被害の大きさ、発生頻度のマトリクス）、及び対策（回避、移転等）が全く考えられていないというのはリスクマネジメントとしてどうなっているのか知りたいレベル。	本博覧会は、日本国内はもとより、世界各国から多くの参加者が集う大規模イベントです。このような大規模イベントの開催に当たっては、テロや自然災害、感染症など、予測し得ない様々なリスクが内在していることを十分に認識し、早期からリスクを洗い出し、計画段階から開催後まで、全ての参加者が安心して参加できる博覧会の運営に取り組みます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
154	どのような自然環境を目標として会場整備を行うか、基本設計が重要だと感じました。旧日本軍が手を入れる前の上瀬谷の本来の自然環境（是非はさておきアメリカのイエローストーン国立公園のヨーロッパ系移民の入植前の自然を良しとするイメージ）を目指すのか、上瀬谷には存在しなかったが、横浜市内、神奈川県内には見られる自然環境も含めて新しい上瀬谷モデルとして打ち出すのか、などの議論を一部の有識者だけで進めるのではなく、多くの市民の意見が反映される機会があればいいと思います。また、昨今はSDG'sを始めあらゆる方面で持続的な開発計画が求められるので、会場内での資源循環や地域の人々の働く場所として継続的に雇用が生み出せる会場施設の計画も必要です。郊外という立地の不利をうまく利用し、花博後も魅力的で求心力のある落ち着いたエリアとしてエリア外居住者からにとっても価値のある緑地と施設の設計が重要だと思います。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
155	体験型のエリアを多くしてほしい。 大人も子供も楽しめるアトラクションを期待する	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを

		高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
156	多様な方々が博覧会にプロセスから開催期間中まで参加出来るような仕組みにしてほしい。園芸という範囲が狭くなるように思いますが、そもそも花や緑に関係する人は多種多様。年齢から言えば子どもや若い世代、女性だけでなく男性も、障害があってもなくても分け隔てなく誰もが楽しめる、そんな世界を体験できるようにしてもらいたい。 日常の連続も大事ですが、そんなことがあったらいいね、というようなビジョンを見せてもらいたい。 未来に向けて様々な知見と担い手の多様さをかたちにさせていただくことを希望します。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
157	2 章 2.5 配送可にする	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
158	4 章 4.1.3 トイレを増やす。入場ゲートは複数にする	ご意見いただきありがとうございます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
159	5 章 5.2 シャトルバスの予約も兼ねたチケット販売。当日券窓口購入可	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
160	5.2.4④広告に予算を割かない	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
161	7 章 7.2 横浜・新横浜・横浜港からの 15 分おきの直行バス。自家用車の駐車場を倍に増やし、出入口は複数にする	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
162	1：伝統的花き園芸文化の発信・浸透への意見 伝統的な花き園芸・造園技術の保全・継承の中に、生け花の推奨や日本庭園の再認識などがありますが、現代の社会における位置付け(家等が欧米の文化によるつくりとなっている等)から、忘れかけている市民へのメッセージとしては大変すばらしい事です。 できれば、実社会においての日本文化の保存、やその技術の伝承等が発揮できるような工夫を凝らした展示があることを期待します。 また、古来からの技術を再現するばかりでな	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示

	く、他国の技術の模倣から日本式の新しい文化を分離確立してきた日本独自のハンギングバスケットの展示・推奨をしてほしいと思います。	以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
163	1：伝統的花き園芸文化の発信・浸透への意見 古来からの技術を再現するばかりでなく、他国の技術の模倣から日本式の新しい文化を分離確立してきた日本独自のハンギングバスケットの展示・推奨をしてほしいと思います。 （1990年代、イギリス発祥の立体花壇であるハンギングバスケットを取り入れ、その後、試行、試作の結果、日本の気候に合う生育技術、製作・展示方法など、日本らしい立体花壇の演出を確立し、現在では花イベントではなくてはならない存在となっている日本のハンギングバスケット。この原点といえる‘吊りしのぶ’は、江戸時代の庭師たちのお得意様へのお中元用に作ったのが始まりとされ、明治から昭和初期に一般家庭にも定着、楽しまれてきたことを考えますと、その風情は独特の歴史を感じさせ今日への発展は魅力にあふれ、見応えのあるものと思います）	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
164	コミュニケーション活動の教育活動 への意見 昨今の社会におけるコミュニケーション不足の問題意識を取り上げ、その問題提起と改良のための実践をするようなワークショップ等を期待します。 花や緑を取り扱い、人間への癒し効果があることは、実証済みであることから、さらにその実践と効果を多くの市民に味わい、増やしていけるようにする試みは、大変すばらしい事と思います。 花や緑が、人間への癒し効果があることは、実証済みであることから、さらにその実践と効果を多くの市民が体験し、心と身体が健やかとなり、その結果、健康寿命を延ばすことができれば、大変すばらしい事と思います。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

165	コミュニケーション活動の教育活動 への意見 花や緑が、人間への癒し効果があることは、実証済みであることから、さらにその実践と効果を多くの市民が体験し、心と身体が健やかとなり、その結果、健康寿命を延ばすことができれば素晴らしい事と思います。 この試みは、時間のかかることから、花博開催期間のみならず、その前の期間における助走期間も必要と思われます。そして、その成果として花博開催時に発表するくらいのスタンスであればなおよいのではと思われます。あと4年半ある期間の中で、少しでも早く開始されることを願います。 また、以前、花普及センターを中心に行っていた、子供から高齢者までを広く対象にした、花と緑の学びを指導する‘花育アドバイザー’等のさらなる育成、活躍を期待します。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
166	3：花博後のレガシー計画遂行のための実験や体験への意見 上記2とオーバーラップするところもありますが、花博後における日本の花や緑への意識向上実践が平常時にも行われているような社会にするために、レガシー効果をうたう事は、大変素晴らしい事です。 少しでも早期に市民の意識向上に向けて、そのための会場整備や実験を開始してほしいと思います。	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
167	「グリーンインフラで創る国際園芸博覧会」という構想は非常に良いと思うので、実現に向けて努力してほしい。計画段階から、地域の自然地形、それを形成している樹木などをできるだけ活かした会場づくりをお願いしたい。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
168	横浜で開催する博覧会で、横浜開港後の植物貿易にスポットライトを当てることは意義のあることと思う。横浜開港資料館や県立歴史博物館の協力を得てパネル展示などの充実を図ってほしい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示以上の考え方のもとに各種展示を行います。

		す。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
169	今後も温暖化が進むと考えられ、夏場の熱中症対策は、現在よりも必要性が高まると思う。 木陰、せせらぎなど自然に涼めるスポットの配置、施設へのグリーンカーテンの設置等、植物を中心とした暑さ対策を提示してほしい。	グリーンインフラ計画の記載を追加しました。 既存樹木等による緑陰や適切な休憩施設の配置の検討を行うことに加えて、風や気温など会場の温熱環境のシミュレーションを行いながら効果的に風等を取り入れた快適な会場計画の検討を進めていきます。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
170	生産や維持管理に関しては、地元の横浜市内及び神奈川県内の生産者が担うところが大きいのと思う。特に、他県から調達した樹木類や、宿根草などの現地環境での順化・育成等の維持管理にあたっては、地域の植木生産者などのマンパワーとバックヤードとして利用できるほ場等を早急に確保する必要があるので、早い段階で十分な協力が得られるような体制を構築してほしい。	いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。なお、植物を円滑に搬入・検収・施工者への分配・引き渡し等を行うため、「植物バックヤード」を会場近隣に設置し、調達から施工まで円滑に行えるバックヤードの運営を行います。
171	瀬谷は道路が狭く、新交通システムが来ないことになった今では、輸送計画に難があると思います。 海軍道路桜並木を全伐採して道路拡幅するくらいでは輸送できません。 周辺住民にも多大な迷惑をかけます。 見直して下さい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
172	また、桜並木を全伐採するという SDG s に反する行為を横浜市がやろうとしています。花博としてこの行為に反対して下さい。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。

173	・博覧会は園芸 (Horticulture) をテーマにしているが、ガーデニングの要素が強い印象を受けた。世界に冠たる日本や横浜の園芸をもっとアピールすべきではないだろうか。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
174	実際の会場の使い方としても、園芸分野は「日本の植物資源展示」やコンペティションに限られており、博覧会全体としての園芸への取り組みが見えてこない。会場の使用も、庭園部分に園芸的な要素を加えて、展示をオーバーラップさせるなど、規模や内容の拡充する工夫も必要ではないだろうか。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
175	・国の開催趣旨に沿って、園芸や造園を広めていくためには、見て美しい部分等での裾野の広がりと同時に、より高度な高みを目指した園芸も目指すことが重要であり。横浜ではそこに重点をあわせた内容にしてほしい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に

		向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
176	日本植物園協会ナショナルコレクション（認定による保全制度）は、現在、更に改良し、充実しているところである。生物多様性の点でも注目されていない観賞植物を中心とした保全ということで、今後の植物資源に関する国民の意識を高めることに繋がり、これを機会に来場者にアピールしたいところであるが、協会が植物を保有していないこともあり、認定された植物をそのまま展示することは難しく、また展示する場合には園芸博覧会として文化や歴史等も含めたさらなる探求も不可欠である。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
177	横浜園芸博でも温室植物などに限らず、何か特定分野のコレクションを行い、博覧会後も継承してはどうか。また、それと連動して、こうしたナショナルコレクションを含む植物資源に関して、日本植物園協会が持つ機能の一部を横浜で存続してもらうことも考えられる。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを实践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
178	植物園協会の会員各園で会期中に園芸博と連動した催事を展開してはどうか。来場者数は博覧会会場のみに拘らず、植物園での展示を見学した方も含めることも考えられる。	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

179	「浜名湖花博」の折は、園芸分野では単に静岡県に止まらず、全国的に関連団体や植物園等の協力を求めた結果、意義深く、展示の質も高く、極めて評価が高い展示となった。過去の園芸博覧会からさらに発展させた、国際社会の中での日本の位置付けや、横浜をキーワードにした特徴ある展示を検討することが重要だと考える。 しかしながら、神奈川県下をはじめ、園芸博で本来主力となる園芸界でも横浜園芸博はほとんど話題になっていない。開催まで5年を切る状況で、このような状況は極めて危惧される。植物の育成には時間がかかるなか、関係業界で話題が出ていないのは、横浜での園芸博が認識されておらず、関係業界の博覧会ということに理解されていないという証左ではないだろうか。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
180	遺伝資源の保全の例として、絶滅危惧種のカワラノギクの桂川、相模川、多摩川、鬼怒川での保全活動の取り組みなどを紹介してほしい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
181	神奈川県内の在来野菜や、神奈川県で育成されたサルスベリやスイートピーなど県内で育成された植物は是非展示してほしいが、生産組織が大きいと、早めに必要量等を提示し、準備を促す必要がある。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示

		以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
182	多様な食体験や1日の風景の移り変わりを体験するためにも、隣接する場所において、キャンプができるの良い。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
183	輸送計画が杜撰過ぎます。 以前計画されていた新交通システムが頓挫しましたが、その代替案が示されていません。 1日の予想来場者数や、駐車場の台数など具体的な数字が一切記載されていませんが何故でしょうか？ 半年で1,000万人、1日平均5.5万人以上の来場者を受け入れる為の具体的な案を早く公表して下さい。 また、徒歩でのアクセスも検討との事ですが、一番近い瀬谷駅でも15分～20分かかりますので、それ以外の駅から歩く事を想定するのは現実的ではありません。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
184	・食体験事業に期待しています。	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
185	・場所的に輸送計画が気になりますが、MaaSやICTの活用に期待しています。	来場者の平準化等の交通需要マネジメントの取組、ICTを活用し適切な情報発信を行うとともに、経路選択や決済などがスムーズに進むMaaSなど、円滑な輸送対策についても検討します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

186	上瀬谷のポテンシャルを生かすとの事です、川を切り回して暗渠にするなど、今の自然環境を破壊して開催する事に反対します。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
187	半年で 1,000 万人、1 日平均 5.5 万人以上の来場者を見込んでおられますが、会場内にその人数を捌ける飲食スペースは存在するのでしょうか？基本計画案には飲食店数や客席数など具体的な数字が一切見当たりません。	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
188	第 10 章の資金計画、第 11 章のリスク管理が、それぞれたった 1 ページしかないのには呆れました。地方公共団体とはどの自治体ですか？民間から確実に 100 億円以上集められるのですか？	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、協会運営が赤字とならないよう、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
189	もはや、この花博の開催はリスクしか思いつきませんが、1,000 万人来場しなくて赤字が発生した場合は誰が責任を取りますか？	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
190	今回の基本計画案は具体的な数字の記載がなかったりと、不完全なものと受け止めています。もっときちんとした計画案を早急に出し直し、再度意見募集をするべきです。	今後は、具体のコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画等も適宜検討状況を公表していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
191	『幸せを作る明日の風景』では主婦層が一度来るだけで終わり。サブテーマでもいいからもっとテーマを広くして幅広い対象を取り込めるようにすべき。山下ふ頭のガンダムを持ち込んでもいいんだぜ？	「幸せを創る明日の風景」のテーマを実現するために、主催者、主催構成者、公式参加者、一般参加者による取組の切り口として、「自然との調和」「緑や農の共存」「新産業の創出」「連携による解決」の 4 つのサブテーマを設定します。日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会に向けて、一人ひとりが心に「幸福感を深める」ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景であるという思いを込めたテーマを実現していきます。いただいたご意見については、参考にさせていただきます。

192	地球温暖化の影響が毎年の酷暑や集中豪雨により身近に感じられるようになり、2050 年のカーボンニュートラルが世界の目標となっている一方、日本においては国政選挙でも温暖化対策がほぼ争点になっていない状況での園芸博覧会の開催は、参加者・関係者の意識・行動を変えるきっかけにする大きな意義があると思います。 4.2③、「整備・管理運営における環境負荷の低減」では、「会場の整備・管理運営全体で環境負荷の低減を図っていく。」とありますが、1.2.2 開催意義にあるとおり、園芸博は 2050 年を見据えて開催するものなのでしょうから、「カーボンニュートラルなど世界の潮流も意識しつつ」よりも一歩進んで、「カーボンニュートラルなどを目標に」、P66 に記載の対策などにより、会場整備・運営全体として環境負荷を減らすことで、世界から賞賛される素晴らしい博覧会となることを応援しています。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
193	・桜並木の伐採を伴う、計画は、愚策。反対である。 安易すぎる。	桜の伐採については、海軍道路（環状 4 号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。
194	早く盛り土して、有害な科学物質が露見されないように埋め立てとアスファルトによる完全舗装を実現してほしい。戦争を思い出すトンネル、コンクリート倉庫、得体のしれない海軍の戦争遺構もブルドーザーで撤去して下さい。完全に作られた区画された緑地を造成して、住宅、ショッピングセンター、お墓、を作ってください。土地評価額が上り、地主さん不動産業者、利権者、儲ける資産家、が富む、貧乏人、大衆には適当に相手を	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	してさっさと巨額投資してカジノでも作ってください。次の選挙で投票数が増えますように、政治家さん頑張ってください。	
195	博覧会のために今ある木々を伐採したり、持続性のない見た目だけ綺麗な開発を行うことには反対です	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
196	既に業務委託を発注している電通及び電通関連会社や周辺を取り巻くプロジューサー、コンサルタント等の利益のための「イベント」であり、問題となっている東京オリンピックと同様に税金が食い物にされている。 この陳腐で「どんぶり勘定」にすらなっていない全く根拠が示されていない、示す事が出来ない数字を「資金計画」としているイベントを税金を使って横浜市が行う事は、もはや背任行為である。市長および関連する全ての役人の責任を明確にして、全ての記録を保存して将来起るであろう起訴や訴訟に備えて下さい。 最後にこれを「資金計画」と言っている人達の知性及び良心の程度を疑います。自分達でも「おかしい」と思わないのでしょうか疑問を持ちます。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
197	第2章輸送計画 複数の鉄道駅からシャトルバスを運行するとあるが、周辺道路は狭かったり、渋滞する箇所があったり、緊急車両が頻繁に通る幹線道路があったりする。花博が開催されると渋滞に拍車がかかり、緊急車両の通行の妨げになりかねないと懸念する。よって花博の開催は賛成できない。 そもそも鉄道駅からのアクセスが徒歩はほぼ考えられず、また瀬谷駅からも2Kmと歩くには遠い。 車両を利用して遠方から来場する場合に使用するであろう横浜町田インターチェンジや保土ヶ谷バイパスは混雑する。徒歩でも車両でもアクセス困難な箇所が会場となっている。 花博を開催するよりも、通信施設跡地を最低限の公園整備にとどめ、都市に存在する広大な空き地として贅沢に使用させて欲しい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。

198	桜並木の保存を求めます。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。
199	多額の税金を投入して今ある自然を壊さないような会場を用意してください。これから長く横浜の土地に住む方々、子どもたちにとっては2027年のこちらの博覧会が終わりではなくずっと暮らしていく場所になります。桜並木の伐採、川や水田を埋めて動植物が住める場所を無くすこと、大地をコンクリートで埋め息ができなくなることは今後の都市開発においても無益なことです。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
200	現実的でない来場者数の設定の見直しと、また来場者が多数だったとしてもいつかの儲けのためだけに事を考えずに、事業計画を再考されてください。	有料来場者数1000万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
201	園芸系 YouTube でもあり、国内最大級の園芸店の店長も勤めていたご経験のある、園芸超人『カーメン君』をご招待して講演をお願いしたいです。ガーデニング初心者からベテランまでどの世代にも対応できる知識と話術があると思っています。ガーデニング人口を増やすためにもカーメン君のご招待宜しくお願い致します。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

202	横浜市の厳しい財政状況の中で、多額の費用を使い花博を実施する必要があるのか疑問を感じています。計画をみる限り、今ある環境を活かすのではなく破壊し、人工的な植樹等で半年間の博覧会を開き、その後の土地活用も真に市民のためになるとは考えにくいです。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
203	動員 1000 万人を見込んでいるという試算も運輸も机上の計画で実情に即していないのは、他のテーマパークとの比較でも明らかです。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
204	また、この計画自体の本質が市民に十分に浸透しているとはいえませんし、過去の「Y150」の成果と功罪（多額の負債や跡地の利用など）から鑑みても横浜市に有益な事業であるとは言えません。さらに建築資材の高騰などで計画以上に予算がかかること、土壌汚染の心配があることなどのリスクもあり、この計画を推進することには問題点が数多く存在すると考えます。花博の計画は見直し、実施計画を中止を切望します。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。 本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。 いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努め

		てまいります。
205	1. 豊かな自然環境の大部分を残しての開催としてください。 会場予定地の「豊かな自然環境」は、「貴重な自然資本」です。 この「自然資本」を棄損せずに開催してください。現行計画では、コンクリートや盛土により多くの自然環境が喪失します。 人為的に創出した環境は、今ある自然には及びません。 自然を残して開催するチャレンジは、国内外にポジティブなメッセージとなります。 博覧会後は、首都圏では稀有な自然公園とすれば、未来へのレガシーになります。 逆に自然資本を棄損した整備、開催を進めれば、目的、意義、時代認識に反した事業になります。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
206	2. 開催場所の変更 自然資本を棄損しない開催が困難であれば、市内の整備済みエリアを使うことで、交通アクセス、収支などの諸課題が一挙に解決されます。 発表後の場所変更は容易ではないからこそ、「自然資本を守るための変更」発表は、博覧会史上に残る英断になります。	会場については、旧上瀬谷通信施設で開催することが決定しています。 旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

207	横浜市立大学で出身で横浜を愛してきました。その横浜で「花や緑、農が身近にある幸せの暮らし」を示す園芸博覧会のために綾瀬の桜が切られようとしていることに身の切り裂かれる思いがします。 桜原桜をご存じでしょうか？ 福岡市南区桜原にある 9 本の樹齢 50 年の桜は毎年綺麗な花を咲かせていましたが、昭和 59 年 3 月道路の拡張工事により切られることに。当時近くに住んでいた土井義胤さんはわらにもすがる想いで短歌を書いて、桜の木にくくりつけました。 花守 進藤市長殿 花あわれ せめてはあと二句 ついの開花を ゆるし給え それを九州電力の社長 川合辰雄さんが見つけ、最終的に市民の反響を得て、桜を伐採しないでという声が進藤一馬 福岡市長の耳に入り、伐採は中止になりました。 そのときに進藤市長が読んだ返歌がこちら 花惜しむ 大和心のうるわしや とわに匂わん 花の心は 香瑞麻 英断をお願いいたします。	桜の伐採については、海軍道路（環状 4 号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。
208	計画案を見ると、旭区にある里山ガーデンを大規模にした事業という印象。人工的に造った庭園＝『自然』とし、持続可能な社会や自然との共生の重要性を訴えるのには無理があるし、来場者には伝わりづらいのではないかと感じる。自然とは本来そこにあるもので、人間はその一部であり、人間が創出するものではない。しかし「多様な参加により創出される風景、景観こそが本博覧会において中核となる。」と記されている通り、そこには自然に対する畏敬の念は感じられない。事業者の傲慢な考えが具現化された事業内容だと感じる。川を暗渠化し谷戸を埋め立て、そこに生きる動植物の生息環境を奪い、種の多様性を喪失させ、庭園を作ることが持続可能な街づくりの姿なのか疑問である。庭園は維持するのに人、金、モノが持続的に	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	必要になってくる。空き家が目立ち、高齢化、人口減少が進む横浜市でこの事業が持続可能なのか、公共性、公益性の高い事業なのか非常に疑問である。	
209	横浜市の政策は「都市と緑地を分離して、緑の保全を図る政策」に見えます。 AIPH では、緑地を都市に融合させ、自然と人工環境を統合することにより、よりよい生活と経済活動を可能とする都市像「グリーンシティ」を提唱しており、人間の住む「グリーンシティ」において SDG s の実現と環境問題の解決を目指しています。 例えば、街の建物を C L T の中層建物で造り、余った敷地を緑地とすれば、緑に囲まれた生活が実現します。また、C L T は木材なので、炭素の固定化機能が高く、2050 年までの脱炭素化「Zero Carbon Yokohama」の実現、温暖化対策にも効果的です。 家の周りにある小さな里山づくりが、都市政策の要になりますが、これは Society5.0 社会の一つの街の姿であると思います。 自然と融合した都市生活を実現する、Society5.0 時代の先導的な「グ リーンシティ 」を横浜から世界へ発信できます。	水、植物や土壌等、自然資源のもつ気象緩和、環境改善、安らぎ・癒し、コミュニティ形成などの多様な機能を最大限生かす「グリーンシティ」の概念とともに、日常生活にさりげなく実装された情報通信インフラやデジタル技術により利便性の高い生活や経済活動が支えられている都市の姿を提示していきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
210	目標来場者数 1000 万の根拠を横浜市も博覧会協会も質問しても答えられないのに無謀な計画は税金の無駄、計画の見直しをお願いします。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
211	今ある自然を壊してまでやる必要はありません。SDGs に反した花博はやめてください。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
212	東京オリンピックでは大会スポンサー決定で逮捕者が出ていますが、国際園芸博覧会ではこのようなことを防ぐ対策はありません。	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら、具体的なコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画

	参加者の選定プロセスの明確化と選定に格までの情報公開はもちろんのこと、他にも必要な対策を検討し、実施するべきです。	等も適宜検討状況を公表していきます。国土交通省、農林水産省及び経済産業省の監督の下、公平性、透明性を確保した組織運営を目指してまいります。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
213	検疫体制については、関係機関に丸投げするしかなく、あとは書類情報管理（ファイリング）しか、横浜市としてはできない。コロナもそうであったが、日本の防疫体制はザルであることを予め認識しておくことが重要である。当然のことながら、主催者である協会単独ではできないことも明白である。花博終了後に外来種汚染がないことを徹底的に期することは、無理であることを予め宣言した方がよい。	国内関係法令に従って適切に取り扱われるよう、関係機関と連携した体制を構築します。いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
214	自然景観が減少している今日、瀬谷地区の原生的な自然景観の中に神奈川県民初め、訪れる人たちは癒しの空間に立ち入り満足感を得る。そこに、自然と人々との共生社会が創設されていく。残された貴重な自然空間を開発し、緑地公園として、人の手が加わった人工的な空間は、自然と共生する人間社会と引き離してしまう。この計画を白紙撤回し、瀬谷の貴重な谷戸の保全を考える機会とされたい。人の手を加えた造園は長続きせず、荒廃した空間となって放置されてきた事例を今までもたくさん見てきた。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
215	国際園芸博覧会基本計画（花博）案は有料入場者数を 1000 万人を見込んでいますが、新たな公共交通システムは、事業者が見つからず花博までの開業を断念しました。その代替案としてのシャトルバスなどで予定入場者数を輸送できるのか、疑問です。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
216	ところが、1000 万人の有料入場者数を基にした計画の規模は当初のままです。会場建設費は 320 億円と見積もっています。このうち 3 分の 2 を国と市・県が負担し、残りの 3 分の 1 を民間が負担するとしていますが、このような財政負担が確実という保証はどこにもありません。そもそも運営費の 360 億円は、入場料収入・物販等で賄うとしていますが、これは 1000 万人の来場があることを前提にしており、その保証はありません。これでは赤字が出て、最終的に市民がその負担をかぶる	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	可能性が大きい。さらに自然環境保全や土壌汚染の問題もあります。小規模でも、市民負担のない計画になりなおしてください。	
217	自然を破壊しての期間限定人工花壇には違和感を覚えます。 土や緑、川、木をコンクリート化してしまっはもはや「自然」ではありません。 また、車いすなどのバリアフリーのために会場内のコンクリート化、お手洗いなどの排泄物の処理のための地中内工事や廃棄場所。 便利になるイコール自然破壊になるのです。 開催を中止することが出来ないのならば、極力、今ある自然を残して、自然の形をとことん活かした花博にしてください。 小川にコンクリート蓋をしないで下さい。 絶滅危惧種のいる場所を奪わないで下さい。 一生懸命生きている桜の木を伐採しないで下さい。 未来に残すのは「コンクリート」ではなく「緑豊かな自然」にしてください。 ハコモノではなく、人の心を潤す自然を残して下さい。 こどもが思いっきり走り回れる緑の広場を残して下さい。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
218	開催場所の横浜市がゼロカーボン掲げている以上、単に花博でカーボンニュートラルの各種展示をしているだけでは、それに対する免罪符にはなりません。半年の短期間とはいえ 1000 万人以上の有料入場者を目論むことにより、今まで以上に、二酸化炭素排出量が増え、環境負荷が増すわけですから、その分のカーボンを吸収固定する算段をこの花博内で取ることにより、実質的にカーボンニュートラルが実現できていることを証明しなければいけません。開催意義のところでのことが明確化されていないのは全くダメで、世界の厳しい目から門前払い扱いされますよ。	エネルギーの供給にあたっては、再生可能エネルギーの活用 100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
219	世界各国に出展参加を求め、日本を含む世界中の園芸に関する最新技術から伝統的技術までを披露。世界人口増が引き起こす食料や水の調達危機を救うための話し合い。あわせて各国の観光局と協力し観光や食文化や伝統芸能の紹介で、世界中から注目されるイベントにする。テーマは緑と平	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場

	和 サブテーマは地球の食料危機を救う。 コンセプトは各国が抱える国内や隣国の問題を本イベントを通じて、各国と交流し、話し合い理解し合い、その解決の糸口を見つける。 会場の70%は園芸通じて各国がアピール、15%は日本企業が園芸を主として世界へPR、残り15%は商業活動など（飲食・物販・休憩所・イベントスペース）。	とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
220	半年で1000万人以上が来場してもストレスとまらない仕組みを作る。多くの来場者でにぎわった博覧会にはストレスが多々あり、会場外アクセスのインフラから来場者数に耐えうる場内での飲食や休憩スペースやトイレの確保。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
221	お世話になります。飲食のご提供に意欲を持っております。例えば、ビーガン料理やハラル料理等比較的馴染みの浅いお料理、旬の植物の活用他、植物を身近に感じる美味しく魅力的なお料理を安全にご紹介できればと考えております。	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
222	今ある自然を破壊して、赤字必至の杜撰な計画で、花博を行うべきものではないと考える。壊した自然を人工的に戻すことなどできない。周辺地域を渋滞に巻き込むアクセスにしろ、酷暑の時期を含むわずか半年で1500万人の来場者数にしろ、無謀すぎる。赤字になれば、市民の税金で補填することは目に見えている。市民はY150の大失敗を覚えている。ただでさえ、横浜市は教育と福祉が手薄で、少子高齢化が危ぶまれている。ハコモノ行政から脱却すべきである。大型テーマパーク誘致が不透明なもの、新交通を断念したものも経営が成り立たないという懸命な判断だ。国も自治体も感染症対策もまともにできないにも関わらず、不安定な観光事業にうつつを抜かしている場合ではない。社会のあり方が激変している状況で、18区全ての市民の理解が得られるものではない。	有料来場者数1000万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。 会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れ魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。 いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。

	オランダ・アルメーレの花博も大損失が出る情勢という。花博をやめる。それが賢明である。	少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
223	エコな乗り物、自転車などが良いと思う。また案内などがあるガイドがあると楽しく過ごせます。	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
224	基本計画案の6頁で「上瀬谷地区の自然環境ポテンシャル」は「農地や緩やかな起伏の草地など豊かな自然環境が広がり、南北に流れる相沢川、和泉川の源流部、谷戸地形等の貴重な自然資本が残っている」としながら、上瀬谷地区を切り土・盛り土で全面的に造成し、コンクリートで固めて擁壁を作り、川を暗渠化して更地にして花博を行うことが明らかになっています。なぜそのようにして「上瀬谷地区の自然環境ポテンシャル」をなくして花博をやるのですか？自然環境を破壊して花博をやることは自然環境に対する敬意が全くなく、ただ花博というイベントを経済利益のために行いたいだけです。現にいる上瀬谷の動植物を殺すことになるのです。現にいる上瀬谷の動植物の命をなんだと思っているのですか？自然環境を破壊して花博を行うことに対して嚴重に抗議し、花博をやること自体に反対します。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
225	開催意義を実現するための取組の方向性として、 ① Society5.0 の展開、 ② グリーンインフラの実装 ③ 花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化 ④ 観光立国や地方創生の推進 が挙げられています。 花博を成功させるためには関係者が同じ方向を向く必要があります。 我が国が目指すべき未来社会として、政府はSociety5.0 を提唱しています。 Society 5.0 は経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会であり、SDG s も Society5.0 社会の中で実現されます。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。博覧会全体で、Society5.0 の展開に取り組んでいきます。 いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

	即ち、Society5.0 の展開が最重要であり、これを基本的方向とし、グリーンインフラの実装、農業・農村の活性化、観光立国や地方創生は Society5.0 の展開の中で実現する必要があります。 文明開化の地である横浜が Society5.0 の最先端都市として花博を開催することに大きな意義があります。	
226	基本計画案の 7 頁で「今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出する」と記述されていますが、上瀬谷地区を切り土・盛り土で全面的に造成してコンクリートで固めて擁壁を作り、川を暗渠化して更地にして花博をやるのですから、この記述は全くのウソです。市民や国民を欺いて自然環境を壊し、市民や国民の血税を無駄に使って花博をやることに対して厳重に抗議し、花博をやること自体に反対します。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
227	現在の花き産業は、化学肥料や農薬の使用、温度管理のためのエネルギー消費など、環境負荷が高い産業と思われます。 農水省の「みどりの食料システム戦略」においても、化学肥料や農薬使用の削減と有機農業の普及が提言されており、花きも対象です。 https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/attach/pdf/team1-153.pdf そういった課題や目標に対して、日本ならではの具体的な解決案を本博覧会で実現するのはいかがでしょうか？ オーガニックフラワーやオーガニックガーデンに取り組んでいる生産者さんや各種団体もいらっしゃるようです。 ご検討いただけたら嬉しいです。	開催意義に、「世界的な環境意識の高まりを踏まえ、花き園芸を含む持続可能な食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を推進する」旨を追加しました。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
228	基本計画案の 10 頁で「里山」の意義について言及していますが、現にある里山を破壊して、取ってつけて花博の会場内に里山を箱庭のように作るのどこが里山を大事にしていると言えるのですか？上瀬谷の里山を破壊する花博の開催に対して厳重に抗議し、花博をやること自体に反対します。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

229	基本計画案の第 10 章で資金計画に触れていますが、たったの 1 頁です。運営費は入場料と営業権利益とで 360 億円としています。1000 万人と見込む来場者が最低来ることによる収入であることが横浜市会ではっきりしています。1000 万人来なければ Y150 の時のように税金で補填することが目に見えています。来場者 1000 万人の根拠さえ示されず、損益分析さえ示されず、建設費 320 億円、運営費 360 億円もの事業を行うのは無謀の極みです。市民の血税を使うことをなんだと考えているのですか？ディズニーランドの年間来場者数 993 万人（半年に換算して 561 万人）以上の来場者を見込むような異常な資金計画を立てる花博の開催は無謀であり、花博の開催に対して厳重に抗議し、花博をやること自体に反対します。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
230	輸送計画は杜撰。動員数算出根拠もコロナの事を考えていない。そもそもディズニーランド以上に人が来る訳がない。Y150 以上の失敗案件になるのは明らかなのにやる意味ありますか？花博開催後のテーマパークもドリームランドや向ヶ丘遊園のようにすぐに破綻すると思います。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
231	国際園芸博覧会開催に反対致します。かかるお金と比較しても到底採算が取れるように思えません。期間限定のイベントに割く予算があるのですでしたら、県民がいつでも利用できる憩いの場、公園の整備等をお願いしたいと思います。私達の税金を無駄な事に使わないでいただきたい。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

232	国際園芸博覧会として海外からのインバウンドも見込んでいるのになぜ上瀬谷という僻地で行うのか。 横浜市民であってもわざわざ行かない土地。 花博は臨海都心部で行った方が良い。 交通は便利でなんら追加することもないだろう。	横浜市では、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」(2020年3月、横浜市)において、まちづくりのテーマに「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」を掲げています。当基本計画では、今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。
233	国からの税金を引き出したところで、大赤字では市民の負担が大きすぎる。 また入場料が高すぎる。とても行こうと思わない。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
234	会場への輸送アクセスは、環境面や周辺への影響を考えると、公共交通の利用を第一に考えるべきだが、現在の計画では近隣の鉄道駅(瀬谷、三ツ境、十日市場、南町田)からシャトルバスを運行する計画となっている。昨今はバスの運転手不足が深刻化する中、必要数を確保できるのか、また参加者が集中した場合に捌けるのか疑問である。当初、横浜市では瀬谷駅からの新交通システムを計画していたが、立ち消えとなっている。そこで、時間的な余裕はないものの、十日市場駅から会場への軌道系交通(LRT)の導入を提案する。環状4号線は、十日市場方面からアプローチする方が道路スペースに余裕があり、開催までの限られた時間の中、瀬谷駅からよりも導入の可能性は高いと思われる。また園芸博終了後も周辺の若葉台団地や霧が丘住宅へのアクセスとして、引続き活用することができ有効であると思われる。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
235	瀬谷区相沢の会場予定地の近くに、昭和30年代から住んでいます。 住んだ当時、この地地域は森や畑が多く、自然に恵まれた土地を気に入って住みました。ところがその後が開発がどんどん進んで、森が切り開かれて住宅地になり、交通渋滞が慢性化するようになりました。 イベントものの会場にするのではなく、通信帯跡	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と

	地を市が買い取って森に戻してください。今のままでもいいです。 今どき、畑や森を潰して、イベント会場や物流施設を整備するのは地球温暖化対策やSDGsを掲げる市としても逆行しています。	共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。 会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。 いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。
236	また、これ以上の渋滞は許容できません。市民として、生活を脅かされる危機感も高いです。 園芸博覧会の開催には断固反対します。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
237	「地球規模での環境対策」や「地球規模の課題に対峙」とあるが、上瀬谷の桜並木を伐採し、川を暗渠化するなど自然破壊するのに何を言っているのだ。 桜並木の伐採についても、横浜市会の委員会で平原副市長をはじめとする職員らは「老木化のため」や「台風による倒木のため」など適当なことを言っていたが、実際には老木でもなく台風による倒木は上瀬谷だけで起きているものではなく、その理論で言うならば横浜市内の全街路樹を伐採することになるであろう。 その場しのぎの言い訳のようなことを言って、どうにか花博を開催しようとしている魂胆が見え見えである。 「横浜・上瀬谷の地から友好と平和のメッセージを発信」というのなら、この豊かな上瀬谷の自然をそのまま生かし、動植物のすみかも奪わないようなまちづくりをしていくべきである。よって花博には反対。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。 会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努め

		てまいります。 いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。
238	「会場内の自然環境を生かしながら」と記載されている。 これは全くの嘘である。花博のため道路拡張をするということで海軍道路の桜並木が伐採されることを市民にはっきりと示すべきである。 また、現在の上瀬谷通信施設跡地に残る木や草花、芝生などはコンクリート化され、川も暗渠化される。 これでは現在すみついている動物や虫などもすみかを失ってしまう。 植栽計画よりも、今ある樹木を大事にすべきである。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。 また、会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
239	国からお金が出るからと言って無理に花博をやらそうとしているようにしか見えない。 そもそも来場見込みの客数が的外れすぎている。 横浜市としてはディズニーランドとディズニーシー相当の集客見込みのようだが、絶対に絶対にそんなに人は瀬谷に来ない。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。 いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
240	赤字になったら誰が責任を取るのだ？過去の万博のように、来場客数が少なすぎて職員に動員をかけるような事態になるのではないか。 （平原副市長が委員会でこの話を暴露していた。） Y150 の失態を忘れたのか？	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
241	中止するなら早いほうが良い。	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

242	花博の会場建設には320億円もの巨額の資金が投じられますが、わずか6か月の開催期間を過ぎると、その大部分が撤去され、廃棄物となります。地球環境の保全が最重要課題になっている今日において、320億円もの廃棄物を創り出すことはSDGsの精神から見ても適切ではありません。 花博では、グリーンシティの創出が重要課題であり、それはSociety5.0の街として実現される必要があります。 186haの「みなとみらい21」は、海から横浜都心部の発展を牽引してきました。242haの旧上瀬谷通信施設跡地は花博のレガシーであるSociety5.0のグリーンシティを引継ぎ、「はまのみらい22」として、陸から横浜周辺部の発展を牽引することができます。 花博の建設物は、Society5.0の未来都市の先駆として歴史的価値があるので、出来るだけ残すことが望まれます。 世界中の人々が未来都市・横浜を見に訪れます。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。 また、会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
243	計画を拝見すると会場内に水辺が少ないような気がします。開催期間は暑い時期も長いので、水による潤いが欲しいと思います。また、是非とも木陰による涼しさも欲しいところです。老若男女が楽しめる博覧会を期待しています。	グリーンインフラ計画の記載を追加しました。 既存樹木等による緑陰や適切な休憩施設の配置の検討を行うことに加えて、風や気温など会場の温熱環境のシミュレーションを行いながら効果的に風等を取り入れた快適な会場計画の検討を進めていきます。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
244	『世界中の桜、大集合の国際花博』として開催し、閉会後も『世界の桜』をレガシーとして永久展示する。というアイデアです。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文

		化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
245	意義、テーマ、コンセプトとも素晴らしいと思います。ただ、非常に高度で難解でとっつきにくく、このままでは多くの人に「楽しそう、行ってみよう!」と思ってもらうのは難しいと思います。より、「楽しいこと、わかりやすいこと」に変換する必要があります。そしてそれを具体化するために、ビジョンを建て、強力に推進していく、見識と経験のある方を「総合プロデューサー」に立てることが有効と考えます。その役職にふさわしい方として、川延昌弘氏を推薦します。神奈川県SDGs 顧問であり、SDGs をわかりやすく解説した書籍を執筆されています。また、地球温暖化防止キャンペーンの先駆である「チームマイナス6%」を企画、生物多様性 COP10 では市民代表として提言、SDGs17 ゴールの日本語化にも深く関わられています。横浜でも 2012 年に環境創造局が開催した「ヨコハマ b フェスティバル」の企画運営にも参加されていました。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
246	花博の開催自体の中止、もしくは最初から見直しが必要だと思います。 カジノ誘致を中止してほしい、という市民の意志が山中市長を誕生させたことを思い出してください。 花々しいイベントや一部の人のための開発よりも、多くの市民の普段の生活のための地道な計画や改善を優先してほしいです。 道路の拡張や周辺の整備は花博と分けて計画すべきだと思います。	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

247	・横浜市の地形(臨海部、崖地、市街地の中の樹林、溪谷等)特徴を挙げ、その中で生きる動植物の特性や行動、もともと自生しているものと外来種対策などの話題を取り入れて学べる空間を作ってほしい。 ・動植物について自生しているもの、残されたものを大切にしながら、横浜市で作出された園芸品種も織り交ぜた庭園やビオトープガーデンを作出、紹介し、自然環境、住環境両面で「横浜が大切にしていること・もの」をPRしてほしい。 ・横浜市、神奈川県全体の企業(大少問わず)に利益が生じるような宣伝方法、導線の確保、特に横浜市の街全体のインフラ整備を強化してほしい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は関係機関と共有し、今後の参考にさせていただきます。
248	・明日(未来)の见えない現代社会において、明日に希望の光を指し示す博覧会にしてほしい。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
249	・成功に向けて、博覧会協会だけでなく、国、地方自治体、民間が各々の責務を明確にし、密な連携で取り組みを進めてほしい。	国土交通省、農林水産省及び経済産業省の監督の下、関係機関、経済界等と連携し、事業の具現化に向けて段階的な体制の構築を目指します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
250	・横浜市内においても、開催に向けた機運が高まっている気配はないので、より一層の機運醸成の取組を期待します。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農

		など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
251	・また、来場者 1000 万人以上を実現するためには、地域住民にとって渋滞など多くの課題があると思うので、輸送計画については地域の方の理解を得ながら検討を進めてほしい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
252	宿根草は、記載のように現地環境での順化と成長を促すため、最低でもオープンの3年以上前に植栽を希望します。そして、維持管理計画は、それ相応の技術と経験と「愛情」を持って植物と接することのできる高度な人格を備えたガーデナーを採用することを強く希望します。長期的な管理計画を把握し、指揮できるガーデナーです。圧倒的な宿根草の知識がなければ、正しい管理ができません。多様な種類に対応することと同じ植物であっても環境の影響ごとに異なる管理が必要となり、灌水、剪定、切り戻しのタイミングや程度をきめ細かに対応することができなければ、宿根草のパフォーマンスを最大限に発揮することはできません。横浜のような暖地の気候で宿根草を圧倒的に美しく管理できるスキルを持つガーデナーは少ないです。ガーデナーを労働力と捉えず、高度な技術職と捉えることで間違いのない人材の確保を願います。ボランティア採用も慎重にお願いします。	会場面積が広く、多様な参加主体が存在することから、会場全体を維持管理できる体制を構築します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
253	第1章4項 「人類は植物に依存している」このテーマを各所に掲示して植物の力に寄って、地球温暖化を阻止する方向を来場者に納得できる大会にしてください。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より

		多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
254	第4章2項 現存する樹林や谷戸地形、生き物たちの保全を第一に考えてください。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
255	これから数年間は、with コロナの生活が強いられると考えます。その中で、屋外を主とした園芸博覧会はとても興味があり、また今後の生活スタイルにおいての新しいコミュニティ像が期待されます。地域だけではなく、日本全体での観光立国へのアプローチに役立つ基本計画を策定するチャンスだと考えます。グリーンインフラ、エンターテインメント、with コロナ（交通網と会場内の動線）に特化した、これからを考える新しい園芸博覧会を創り上げて下さい。最後に人材育成の場として、この博覧会をきっかけに教育計画をして頂くと幸いです。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
256	現在、地球規模での温暖化対策、砂漠化対策、食料危機対策が求められており、これら問題の解決なしには、テーマである「幸せを創る明日の風景」は生まれません。求められているのは、美しい花壇を並べる花博ではなく、問題解決型の花博ではないでしょうか。 都市化によるヒートアイランド現象は以前から問題になっており、地球全体で都市化が進む状況から、問題はより深刻化しています。 日本の将来の社会は Society5.0 であり、SDGs を推進して、環境問題も解決する都市が必要です。周りを市街地に囲まれた旧上瀬谷通信施設跡地で開催される今回の花博では、Society5.0 のグリーンシティを創り、世界中の都市に向けてと都市	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせ

	と緑の関連を発信する必要があります。 砂漠化対策としての海水淡水化技術、食料危機対策としての人工光合成等の先端技術の展示が重要だと考えます。 求められているのは美しい花園ではなく、問題解決です。	ていただきます。
257	輸送計画に具体的数値がなく、実現可能性に疑問を感じる。現在および今後の情勢を分析したのか疑問である。具体的には、シャトルバスが確保できるかどうか。ドライバー不足が深刻であり、より深刻化していく方向である。運送事業者がどう考えているのか。シーサイドラインの二の舞になる危険性がある。また、パークアンドライドも計画しているが、こちらもシャトルバスが必要で、考慮されているかわからない。スタッフの輸送についてもわからない。自動運転に期待されているようだが、現時点で現実的でなく、そのようなものに期待をして予測に含めるのは危険である。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
258	継続していいものを後生に残していくことが大切	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
259	レガシーガーデンとしての美しい宿根草ガーデンが見たい。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。

260	横浜という都市が培ってきた文化・歴史をいかし、未来につながるライフスタイルを提案する博覧会となることを強く希望する。そう考えた時に、花き園芸・造園・農のみに偏ることなく、文化芸術創造都市として培ってきたクリエイティブな力、アートとの連動をしっかりと取り込んだ”グリーンシティ”を国内外に提示・発信してもらいたい。事業内容はもちろん、会場構成や移動・参加形態のデザインなど、幅広くクリエイター・アーティストの活躍の場となることを期待する。また 2027 年は横浜トリエンナーレの開催年でもあり、しっかりと連動した取組としなければ、国内外並びに地元市民への発信力、横浜としての都市力の向上等々の観点からも、非常にもったいないことであり、しっかりと計画準備をお願いしたい。	水、植物や土壌等、自然資源のもつ気象緩和、環境改善、安らぎ・癒し、コミュニティ形成などの多様な機能を最大限生かす「グリーンシティ」の概念とともに、日常生活にさりげなく実装された情報通信インフラやデジタル技術により利便性の高い生活や経済活動が支えられている都市の姿を提示していきます。また、本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関等との広域連携・参画推進活動を実施します。また、いただいたご意見は、横浜市と共有し、市が開催する横浜トリエンナーレを始めとしたアートイベントとの連携を図る際の参考とさせていただきます。
261	レガシーガーデンとしての美しい宿根草ガーデンが見たいです。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
262	1000 万人の来場を想定している国際園芸博覧会の開催にあたっては、国内外の来場者が、園芸博覧会会場のみにとどまることなく、多様な横浜の郊外部のくらし・ライフスタイルを体験できるように、周辺エリアでの回遊、宿泊を促すための取組が求められると思います。 ズーラシア、里山ガーデンはもちろんのこと、民泊や体験観光等のメニュー造成を、市・関係事業者をあげて取り組んでいただきたい。近隣には農体験や、自然体験、農家・古民家での宿泊・飲食プログラム、大規模団地の暮らし体験、多様な移動体験など、さまざまなプログラム開拓の可能性	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

	があると感じており、そうした取組こそが、博覧会のレガシーとして、横浜郊外のまちづくりに資すると思います。	
263	多様な主体の参加による事業展開の一般参加として市民団体・個人が想定されているが、単なる会場内ボランティアにとどまらない、参加・活動のチャンネルを提供していただきたい。例えば、地元市民が、開催地としての誇りをもって、友人・知人に来訪を呼び掛ける PR パーソンとして活動していくことや、博覧会来場者が回遊・宿泊できるよう、民泊や体験プログラム、ツアー造成等々、小規模でも多種多様な着地型の体験観光プログラムの担い手としても参画できるよう、博覧会会場外へのひろがりを目指して進めてもらいたい。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
264	交通アクセスについては、車・バスへの来場による交通渋滞の悪化、周辺道路への影響が懸念されるなか、周辺エリアの宿泊場所もしくは瀬谷駅から、徒歩による来場者の割合を、大幅に増やす方策を講じるよう努力してもらいたい。 ウォーカブルな環境整備はもちろんのこと、歩いて楽しい、得をするインセンティブの提供など、あらゆる工夫を尽くしてもらいたい。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
265	コンセプトの中で「①環境共生社会への挑戦」「②自然資本と技術の融合」では、生態系の破壊がすすむ現状や、博覧会での生物の育成の場の提供などの文章がありますが、その他の部分では記載が少なく、動物への配慮に懸念があります。会場予定地にはキジなど様々な動物が生息し、会場敷設工事に伴い、生息地を失うなどの懸念があり、その点への配慮をお願いします。また、園芸博覧会ですので、植物がメインとなる事は理解できますが、動物の育成の場という意味で、動物が実際に生息する様子を展示出来ないでしょうか。 例えば、会場に隣接する瀬谷市民の森には、蜚が生息します。開催までに育成をすすめ、会場内の谷戸でも見れるようにするなど、より共生・育成を実感できる展示にして欲しいです。	会場計画に当たっては、自然環境（地形、土、水、風、緑）を読み込み、そのポテンシャルを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な空間基盤を形成します。まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物といった既存の自然環境をできる限り保全・活用し、さらにそのポテンシャルを向上させるような計画を進めていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

266	サブテーマ「自然との調和」内に 日本の里山に見られる自然との共生 再生循環の知恵… 事業構成の項でも上瀬谷地区の自然ポテンシャルを積極的に活用 …と耳触りの良い言葉が並んでいます 「里山」とは 人が手を入れる事で維持される環境や生態系を指しますが 大前提に「自然の再生力を超えない」という条件があるのです 谷戸を埋め立てて 草地を舗装し 川の流れだけでなく 水質や地下水量も変えるこの計画には「自然の再生力維持」はできません サイバー空間とフィジカル空間の融合で経済発展と社会的課題を解決する Society5.0 を標榜するのであれば 2017 年の全国都市緑化よこはまフェアの時に倣い 展示は 整備され交通の便も良い みなとガーデン地区で行い 上瀬谷は谷戸の自然をバーチャルリアリティ等で紹介 またエコツーリズムとして限られた人数で保全を前提とする体験学習ができるようにするべきだと思います	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れ魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
267	自然環境の中には生産環境、生産ほ場の概念も含まれると思う。 園芸博覧会会場の整備にあたっては、地域の生産環境、農地等をできる限り保全・活用し、将来的にも引き継がれるようにしてほしい。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

268	日本植木協会では「日本列島植木植物園」を展開しており、単なる生産圃場では無く、遺伝資源の保全を行いつつ植物園として開放もしてきており、グリーンインフラという考え方を先取りしてきた実績がある。 計画地域内には、上記植木植物園に参加している植木園もあり、植木生産圃場は重要なグリーンインフラであるという認識で対応してほしい。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
269	横浜は、古くからの花き・植木生産地であり、高度な技術を持った生産者も多いので、その力を大いに活用すべきである。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
270	旧上瀬谷通信施設跡地での国際園芸博覧会（以下、花博）の開催に反対します。 花博の横浜市による誘致は「横浜民事務決裁規程第3条別表第1市行政の基本事項市長決裁事項(2)」に基づき、市会の議決を経ずに、2019年9月9日、AIPHに申請されました。 また花博の開催には、旧上瀬谷通信施設地区土地区画整理事業の終了が前提ですが「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」は誘致後の2020年3月まで公表されず、2022年6月に縦覧が可能となった現案には2020年案に含まれていなかった環状四号線の一部拡幅工事が入り、この変更については一度も市会へ報告されていません。この変更により、上瀬谷地区南部の相鉄線跨線橋周辺及び中原街道二ツ上橋交差点付近に現存する交通渋滞の悪化が予想されます。両地区とも近隣に救急	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	病院があります。 2022 年案の見直しに必要な時間と手続きのため、花博は山下ふ頭で開催するよう提案します。	
271	レガシー計画に基づき、宿根草ガーデンをメインとしたガーデンを希望します。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
272	今の上瀬谷の自然はかけがえのないものです。収支計画破綻している花博の計画は中止すべきです。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、協会運営が赤字とならないよう、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
273	基本計画中でも述べられているように、「上瀬谷地区」には南北に流れる相沢川、和泉川の源流部、谷戸地形等の貴重な自然資本が残っています。上瀬谷の谷戸には、既に安定している生態系の本当の姿があります。この土地での植物や生き物が今ここで生きています。森や自然についての勉強を始めたばかりですが、園芸用の植物と自然の植物とは全く違うと私は思います。里地里山は究極のエコシステムであると聞きますが、花博後、持続可能な社会を創るため、現代の課題解決に向けてのヒントを生み出せるような場所になってほしいと思います。そのためには、この地形を残して多くの人に見て考えてほしいです。せめて相沢川と和泉川の源流部だけでもそのまま残し、園芸部を最小限に縮小して開催してほしいと願います。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、微地形等をとらえた園路構成の詳細検討を進めていきます。さらに、対象地の地形等を活かした、快適な観覧、休憩等に繋がる園路線形や施設配置の検討を進めていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
274	期間中に、五節句の内、端午の節句（5月5日）、七夕（7月7日）、重陽の節句（9月9日）があり、いずれもショウブ・ハナショウブ、タケ・ササ、キクと植物とのかかわりがあるので、紹介展示してはどうか。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、

		花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
275	・博覧会自体のカーボンニュートラル、ゼロカーボン、さらにネガティブエミッションを明確に掲げてほしいです。リアルタイムに温室効果ガスの排出量／吸収量をモニタリングして可視化する仕掛けをしたり、さらには、排出量を計測する取り組みをルール化して国際標準化するなどの意欲的な取り組みを期待しています。 【参考 大阪万博の事例】 https://www.expo2025.or.jp/news/news-20220427/	期間限定のイベントであること、閉幕後は都市公園等としての利用が予定されていることなど、本博覧会の特性を踏まえるとともに、カーボンニュートラルなど世界の潮流も意識しつつ、会場の整備・管理運営全体で環境負荷の低減を図ります。 また、エネルギーの供給にあたっては、再生可能エネルギーの活用 100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
276	公明正大な運営をお願いしたいです。東京オリンピックでは、会計が不明確であったり、スポンサー契約の公平さが疑われるなど、杜撰な運営体制が問題になっています。第三者機関のチェックなどにより、疑義のない運営できるよう組織づくりの点から考えていただきたいです。	国土交通省、農林水産省及び経済産業省の監督の下、公平性、透明性を確保した組織運営を目指してまいります。
277	瀬谷駅からの新交通システム等、新しい軌道交通の整備は必要なのではないかと感じました。 たとえ整備が花博に間に合わないとしても、花博跡地にも人を永続的に呼び込むため、海軍道路の花博会場以南の4車線化が難しい状況であることを考慮すると、必要な投資・整備だと考えます。 バス運行については市民の道路利用に干渉する可能性が高そうで、少し心配です。 メインとなる瀬谷駅から運行される便は大きな影響をきたさないと思いますが、三ツ境駅や十日市場駅周辺の道路事情を考えると、この2駅からのバス運行が市民生活に与える影響は大きいのではないかと思います。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&Rの導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。 また、新たな交通に関するご意見については、横浜市へ情報提供させていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

	早めにどの駅から毎時何本程度の運行を予定しているか、発表していただきたいです。	
278	グリーンシティの推進を掲げるのであれば、大会を機に2050年横浜グリーンシティのビジョン策定を目指してはいかがか。市民参加型（企業含む）で、大会のレガシーとして2050年の横浜におけるグリーンシティのあり方をビジョンとしてとりまとめて市長に提案し、グリーンシティ宣言としてつなげるのはどうか。	水、植物や土壌等、自然資源のもつ気象緩和、環境改善、安らぎ・癒し、コミュニティ形成などの多様な機能を最大限生かす「グリーンシティ」の概念とともに、日常生活にさりげなく実装された情報通信インフラやデジタル技術により利便性の高い生活や経済活動が支えられている都市の姿を提示していきます。また、本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関等との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
279	レガシーガーデンとしての宿根草ガーデンが見たい	会場の一部は、将来横浜市により公園として整備されます。本博覧会の理念・テーマ等を継承・発展・発信する拠点となり、『「みどり」で広がる暮らしの風景』をテーマに、多様な主体（利用者）の参画と連携により、自然と人をつなげ自然とともに生きる持続可能で多様なライフスタイルの醸成に寄与するとともに、人と人とがつながるコミュニティ形成の場として展開されます。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
280	経済社会システム全体の転換すなわちグリーントランスフォーメーション（GX）の概念が含まれていない点が気になりました。会期中にさまざまな先進的な取組にチャレンジする企業を公募するなど、緑をめぐる様々な産業の実証実験、社会実装の場として民間の投資を広く集める仕掛けづくりをお願いしたいです。園芸・農におけるサプライチェーン（肥料や穀類、菌床、雑草などの廃棄物、流通など）すなわち、生産から消費にかかるまでの課題解決。バイオマスエネルギーの活用、農業用のボイラーや耕作機械の脱炭素化、営農型太陽光発電など、裾野を広げて社会の在り方全般を扱っていただきたいです。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせ

		ていただきます。
281	花博閉幕後、荒地に戻らないよう管理は徹底してほしい。 最近の都市は緑が少ないが、上瀬谷地域はこの花博で美しい緑を整備することができ、閉幕後はこの緑と共生できる都市となれると思う。 計画が止まった上瀬谷ラインの閉幕後の整備も含め、拠点性のある街・魅力ある市外からも人々が訪れる街を目指して開発してほしい。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。 また、横浜市では、「旧上瀬谷通信施設土地利用基本計画」（2020年3月、横浜市）において、まちづくりのテーマに「郊外部の新たな活性化拠点の形成～みらいまで広げるヒト・モノ・コトの行き交うまち～」を掲げています。当基本計画では、今ある緑や農地を保全しつつ、ここでしかできない新たなコトやモノを創出することで、世界中のヒトやモノを惹きつける魅力ある空間を実現し、旧上瀬谷通信施設を含む郊外部の活性化を目指すとともに、国際園芸博覧会の理念をみらいに継承・発展していくことも重要としています。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
282	何度でも会場に来たくなる仕組みづくり。例えば、AIによる会場の植物とコラボした展示や音楽の自動生成、会期中を通じたバリエーション豊かな食事の提供、さまざまなアーティストの参加や、地域の市民や学校とのコラボなど、会期中に人々が何度も訪れたくなる仕掛けをお願いします。2005年日本国際博覧会の愛地球博では、ジブリパークが、会期後も人や投資を呼び込むレガシーとなりました。そうした魅力的・象徴的な展示をお願いしたいです。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
283	横浜はオープンな都市なので、農業、園芸業界と別の業界企業や市民との対話の場、コラボレーションの機会を設けてください。会場に閉じず、みなとみらいや新横浜、市内の大学など他のエリアをサテライト会場としてイベントを実施するなど、市内全域で同時多発的な祝祭感の演出を行	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

	い、園芸や農に対する関心を高めるような仕掛けをお願いしたいです。	
284	1 章及び 7 章 長文のため 3 つに分割しています。 その 1 会場予定地周辺では、現在も日常的な交通渋滞が発生している。このような中で、来場者が 1,000 万人を予定している国際園芸博覧会を開催することは、車やバスが主な移動手段であるこの地域の交通環境に大きな影響を与え、より一層悪化させることになる。この来場者数だが、今回初めて、1500 万人と説明されていたものが、変更された。有料、無料を問わず、会場に出入りするには何らかの交通手段を利用して移動するのであり、来場者数を変更すべきではないと考える。また、当初検討していた新交通システムについては、国際園芸博覧会までには間に合わないことになった。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
285	横浜中心部から外れた郊外なので、他のエリアとの回遊性を持たせる仕組みを作ってほしい。市内中心部の宿泊施設とのアクセスや宿泊を伴うツアーの推奨、他のエリアでのサテライトイベントの実施など。	会場外との連携については、横浜市をはじめとした、周辺自治体等との連携を検討していきます。本博覧会開催前から、盛り上げていけるよう仕組みを構築していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
286	1 章及び 7 章 長文のため 3 つに分割しています。 その 2 代替案として周辺 4 駅からのシャトルバスなどが検討されているが、周辺道路への影響が出ることが容易に考えられる。新交通システムが間に合わなくなった今、交通輸送はソフト面の対策にとどまらず、地元の横浜市とともに、ハード面の対策もすべきである。 交通輸送対策としては、開催地の土地区画整理に関係する範囲だけでなく、関係性の高いズーラシアや里山ガーデンなどの隣接する大規模な集客施設との連携も考えた広域の交通網に関して検討して進めるべきである。 特にズーラシア内の中央道路は、20 数年前の開園依頼の懸案であり、毎年、地元の上白根連合自治会によると。ひかりが丘団地や西ひかりが丘団地では、5 月連休などの混雑時期には、毎年、路線バスの通行に支障をきたしており、もう、我慢が出来ない状態にある。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。

287	1 章及び 7 章 長文のため 3 つに分割しています。その 3 更に平成 31 年度の意見募集時から動きが見えないため、現状の周辺交通状況を鑑みて早急に整備をすべきである。また、現在でも既に混雑し、一部対策をし始めている、旧国道 16 号（市道五貫目第 33 号線）の拡幅整備及び上川井 IC の改良は急務であるが、現在でも地域では課題である卸本町付近の環状 4 号線のトラック駐車による混雑や大和バイパス下の滝沢隧道の浸水対策など、地元の日常交通や来場者を支えるハード・ソフト両面からの交通輸送対策を実施すべきである。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
288	会期中に展示が終わった植物を市民や企業、横浜市で引き取り、自宅や公園で植えて育てるということをレガシーにして、園芸文化を高めていくのはどうか。スイスでは観光客のために花を植えて飾るのが市民に定着していると聞きます。	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
289	これまで長きにわたり地域活動に取り組んできた者としては、園芸博を契機にこれまで進んでこなかった郊外部のまちづくりが進展することを大変期待している。また、園芸博をより良いものにするために地域全体で盛り上げていきたいと思う。 そのためにも、園芸博を開催地周辺にもっと各種広報手段を活用し PR をして、誰もが来たくなくなるように認知度や期待度を高める広報に一層取り組むべきである。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
290	横浜市の緑と共存するまちづくりの PR の機会にしてください。みなとみらいや港北ニュータウンでは先進的な都市計画が行われており、緑と生活、職場づくりが両立している。また市民参加型の緑化の仕組みなど、横浜の緑と共存するまちづくりを PR し、シティーセールスの機会にして、会場に来た方に横浜のファンになってもらい、観光や移住につなげてください。	多くの先進的な取組を行ってきた横浜において、本博覧会の開催を機に、都市生活が自然と共にある未来を市民・企業・行政が共に考え、行動を起こし、アイデアを形にする取組を展開することにより、先導的な「グリーンシティ」を提示し、日本・横浜から世界へ発信する機会とします。いただいたご意見は、横浜市と共有し参考にさせていただきます。
291	飲食施設では、世界各国の料理が食べれるなど、展示や庭園以外でも魅力ある園芸博覧会にしてください。	身近な食を通じて食料危機や農業の課題を認識することで、来場者に本博覧会のテーマを実感してもらうことを目的として、世界中の風景・食・文化、人とのふれあいを五感で楽しみ、幸せを感じ、驚きと喜びに満ちた体験ができるよう、企業や農家等と連携して食体験事業を企画します。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

		ます。
292	博覧会は国家事業である。国内の地域格差を埋める博覧会であってほしい。自然豊かな地方ではあるが管理放棄地や廃墟した空家、基本テーマの「幸せを創る明日の風景」を実現するには、財政的にも人的にも厳しい。これらの現実を踏まえての博覧会とするため、博覧会を作り上げようとする今段階から、志ある個人を受け入れ、地方自治体を巻き込んだ現実の場での実装の博覧会づくりを期待する。 その具体策として①遠隔地からでも参加可能なネットによるサポーター、出展者制度の創設。②その受け入れとして博覧会内に「バーチャルコモンズ（コミュニティ）」の設置。③開催趣旨に賛同しみどりを基軸にしたまちづくりを標ぼうする地方都市を支援し、サテライト施設・フィールドを設け社会実験、実装の場とする。④公民館等、教育機関と連携し、みどりの観点からの「環境教育」、「郷土教育」、「ものづくり教育」など新たな社会教育、まちづくり活動を支援する。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
293	2027 年に向けた開催意義に疑問しか感じません。コロナ禍、財政難、高齢化ならびに少子化、頻発する自然災害、環境破壊…これら難題が山積する中、わずか半年間の博覧会の為に多額の税金を投入して開催する意義が全く見当たりません。時代錯誤が甚だしいです。どなたの利権の為に博覧会でしょうか？ 博覧会に巨額の税金を投入するよりも、山中市長が公約に掲げた 3 つのゼロ、公立中学校の全員給食に予算をまわして下さい。歳出改革を謳うなら、まず園芸博を中止にするべきではないでしょうか。港北区に住んでいますが、この 10 年でも近隣の自然は宅地化の為に伐採され大幅に減少しています。子供が遊ぶ公園も近所にはありません。博覧会の為に、桜並木も伐採してしまうのですか。 「花と緑があふれ農が身近にある豊かな暮らしの実現」する為には博覧会開催でなく横浜市民の生活圏の自然を守り育てるのが一番です。国際園芸博覧会の中止を強く求めます。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

294	「4つのサブテーマに沿った、ソリューションコンテンツをご提案します。 1.自然との調和 ・地域のコミュニティ拠点をグリーンインフラと捉え、デジタルとリアルを組み合わせたイベントや販わいづくりのコンテンツをご提案します。 2.緑や農による共有 ・体験と体感の共有、植物ライフサポートをテーマにした植物コミュニアプリコンテンツをご提案します。 3.新産業の創出 ・新たな花みどりの付加価値サービスとして、エコポット胡蝶蘭・グリーン電力活用コンテンツをご提案します。 ・SDGs 促進の観点から、花卉生産者応援、ロスフラワーを活用したコンテンツをご提案します。 4.連携による解決 ・個人と企業が共に社会貢献、おすそわけを手軽に楽しみながら、マイレージとして可視化出来るアプリコンテンツをご提案します。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
295	風景・景観の最適化（リ・デザイン）し、新しい自然観を提示するとはどういうことなのでしょう？里山ガーデンのような人工的な植栽を展開することはやめてほしいです。人は自然に生かされているのに自然に対しての畏敬の念に欠けています。 上瀬谷に現存する谷戸を活かし、森や川を本来の姿に戻すことが未来に向けて必要なことと考えます。花博開催予定地の北側の土地整理事業範囲で川の暗渠化や盛り土・切り土による平地化の計画がありますが、花博の理念とは真逆ではと考えます。会場から豊かな自然のつながりが見えてこそ上瀬谷で開催する意味があるのではないのでしょうか？	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 いただいたご意見は横浜市とも共有し、今後の参考とさせていただきます。
296	横浜市が掲げるテーマやコンセプトで花博を開催したいなら、みなとみらいなど都市部で行う方が良いのでは？と思います。1,000 万人の来場者を迎えることも、その方が無理がないのではないのでしょうか？	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、友好と平和や持続可能なまち

		づくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。 有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。
297	入場者数の見込みが甘い。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
298	輸送手段が不明確。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
299	建設費が莫大。市税の無駄遣い。赤字が出たら、誰が責任を取るのか。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
300	不可逆な貴重な自然破壊。 白紙に戻すべき。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れ魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

301	地域住民に聞きましたが、2016年位までは地域の防災公園にする方針で 話が進んでいたのに突然ちゃぶ台返しされた。上瀬谷に花博を招致し国の金で開発し、環境を破壊し谷戸や水源の地の利も無視し、大規模開発を押し進める横浜市。 花博など横浜市民は望んでいません。 政・官・財の鉄のトライアングルで環境を壊す様は醜悪。 市民意見募集もやってる感醸す為の所業、自治体として最悪です。 人口流出や税金流出ふるさと納税ダントツ1位。市民をバカにするのも大概にはいかがですか。環境破壊、ゼネコン癒着、電通が関係しては超1級の中抜きをされますね SDGsにも反してます。→貧困、不平等・格差、気候変動による影響など、世界のさまざまな問題を根本的に解決し、すべての人たちにとってより良い世界をつくるために設定された、世界共通の17の目標 故に基本的計画全体に反対します。花博反対。 以上	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
302	宿根草で通年変化を見たい。	ご意見ありがとうございます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
303	① 環境共生社会への挑戦→植物の世界と人とのつながりや自然との共生の重要性を発信していく。② 自然資本と技術の融合→自然環境が有する多様な機能を発揮するグリーンインフラ実装のモデルを世界に発信していく。③ 風景・景観の最適化（リ・デザイン）→然の恵みを享受しながら生活空間と経済 活動空間が適切に統合された、快適安心な空間を日本ならではのグリーンシティとして世界に発信する。博覧会に向けて上記コンセプトを確実に示してほしい。	「幸せを創る明日の風景」のテーマを実現するために、主催者、主催構成者、公式参加者、一般参加者による取組の切り口として、「自然との調和」「緑や農の共存」「新産業の創出」「連携による解決」の4つのサブテーマを設定します。日本・横浜が創る明日の豊かさを深める環境社会に向けて、一人ひとりが心に「幸福感を深める」ための種を自分の意志で蒔き、これを人や環境との関わりの中で育み、生命力にあふれ、個性豊かに、多彩な花を咲かせること、それが豊かさを深める社会の風景であるという思いを込めたテーマを実現していきます。いただいたご意見については、参考にさせていただきます。
304	協会における4つのサブテーマ及びコンセプトに沿って新技術についてご提案いたします。 1 自然との調和 グリーンインフラとネットゼロウォーターによ	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成しま

	るエリア循環型システムについてご提案いたします 2 緑や農による共有 バイオフィリックデザイン技術を活用して、市民の生活に緑を深めていきます	す。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
305	3 新産業の創出 都市の緑（アーバンフォレスト）のデジタル化や、3Dスキャナ樹木の魅力や価値の発信を行い、楽しく安全な緑へのご提案をいたします 花と緑をより快適で安全に維持管理するDXツールをご提案いたします バーチャルと緑をつなぐ未来の新技术をご提案いたします 自然資源をフル活用するカーボンマイナスパークをご提案します バイオフィリックデザインを活かした植栽用LED照明へのご提案をいたします	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
306	4 連携による解決 公園で使う電気の100%再エネ化をご提案します 補足事項等がある場合は、ご説明させていただきます。	エネルギーの供給に当たっては、再生可能エネルギーの活用100%を目指し、上水道利用の節減や雨水利用の導入などの資源循環・再利用を促進すると共に、グリーンインフラを積極的に活用し、持続可能な運営管理を推進します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
307	レガシーガーデンとして、宿根草を利用したガーデンが見たい。 一年草ではなく、宿根草を利用すればレガシーとして残る部分が大いだと思うため	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
308	世界中から注目の集まる園芸博覧会では、日本人の心、世界に誇れるサクラを是非発信してほしいです	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示

		4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
309	開催後も後世に残り、世界中から人が集まるサクラの名所ができるといいと思います。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしています。 引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
310	博覧会後も緑豊かな景色が広がっているとよいと思います。 植物の保護、維持のコストを考えると宿根草等を使ったガーデンを見てみたいです。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。

311	博覧会の目的などは大変良いことと思いましたが、子供たちを連れて行くかという点、なかなか楽しめる場所がないなと思いました。 会場の自然を体験できるアスレチック施設やジップライン、夏場はジャブジャブプールなどあると良いかなと思いました。楽しんだ上で、夏休みの自由研究にもなる自然や環境、SDGs など学べるというかと思います。ぜひご検討ください。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
312	有料入場数 1 0 0 0 万人は過大な計画である可能性が高いです。交通アクセスが未定で 1 0 0 0 万人会場まで運べないのではないのでしょうか。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
313	会場建設費 3 6 0 億円を入場料収入で賄えるか大いに疑問です。赤字が発生し、最終的に市民負担が発生することのないように、計画を精査し見直してください。～	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
314	1 有料入場者数は、オランダアルメーレの園芸博覧会開催に学んで、大幅に減ずることを検討すること。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
315	2 会場建設費を 320 億円と見積もり、このうち 3 分の 2 を国と市・県が負担し、残りの 3 分の 1 を民間が負担するとしていますが、民間負担については保証されていません。会場の在り方・設営など SDGs 未来都市にふさわしい動植物の重要な種をはじめ、生態系を保全するための環境保全措置として、現状の地形等をいかした会場づくりに取り組み、その後の公園にも生かされるようにすること。建設費については大幅に見直し削減すること。 3 360 億とされている運営費は過去博の運営から算出されているものです。有料入場者 1,000 万人の入場料と物販で賄うとしていますので、改めて規模と共に運営費は見直すこと。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れ魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。 また、博覧会後の会場の一部は公園のレガシーとして引き継がれます。 本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、協会運営が赤字とならないよう、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。 いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

316	4 現在ある植生や水源、水の流れが壊されることなく、生態系の保護や、浸水被害をおこさないよう会場づくりを行うこと。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 いただいたご意見は横浜市とも共有します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
317	1 海外からの多くの植物の持ち込みが行われることが予想されますが、日本の在来種が脅かされることないよう厳格に取り扱うこと。	国内関係法令に従って適切に取り扱われるよう、関係機関と連携した体制を構築します。いただいたご意見については、今後の参考にさせていただきます。
318	2 会場内の移動については、徒歩を中心としているということですが、それと合わせて3輪の自転車等を活用すること。	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
319	3 ゼロカーボン横浜を実践するために、博覧会終了後に会場施設を取り壊して廃棄物を大量に出すことは避けなくてはなりません。再利用可能な建材などの活用をすすめ、できるだけ大がかりな施設はつくらないこと。	建築計画は、水や風、光などの自然環境を有効に活用し、エネルギー消費の軽減を重視した設計とします。環境に配慮した素材を選び、特に国産木材を積極的に使用していくことを検討します。 展示建築施設の一部は、跡地に整備される公園の施設として継承します。会期中に限り利用される仮設建築物は、解体時の廃棄物を抑制する観点から、リース品やリサイクルが可能な素材等を積極的に活用します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
320	4 レストランなどで出る食品残渣についての活用、季節によつての植え替えによつて大量の廃棄植物が出ることが予想されますが、できるだけ廃棄植物を出さない植栽計画とすること。	ご意見いただきありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。
321	1 多大なる公費を投入し市の職員が大挙して行う事業であることから、市の外郭団体に等しい位置づけであると考えます。市民への積極的な情報公開に努めること。	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら、具体のコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画等も適宜検討状況を公表していきます。いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
322	2 全体計画が決まっていますが、醸成の進展状況に機敏に対応し計画変更する柔軟性をもってあ	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、協会運営が赤字

	たること。例えば、前売り券の売上状況を鑑みて、運営費等の思い切った見直しを決断すること	とならないよう、着実な運営を行っていきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
323	3 過大な有料入場者数のもと推進し、赤字が出た時には最終的には市民がその負担を被ることのないように国と厳格に調整すること。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
324	SDG s、脱炭素の視点を、本博覧会に取り込んで展開してほしい。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
325	「参加の仕組みについて」 市民の意見ができる限り反映され、市民が企画や準備の段階から参加できるようにしていただきたいです。 業者任せではなく(企業が作ったものは、画一的でつまらなそうな印象があります。) 情報や連絡が行き届いていないだけで、博覧会に参加したいと思っている市民は大勢いると思います。 例えば、なるべく早い段階から博覧会について市民が自由に語り合える、コミュニケーションスペースみたいなものがあるとよいのではないのでしょうか。リアルな場所でもバーチャルな Web や SNS 上でも構わないと思います。 様々な市民が参加し易いように、参加の枠組みや仕組みを分かりやすく、アクセスしやすく明確にさせていただき、参加するためのキッカケを多種多様に用意していただきたいです。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

326	「ワークショップについて」 一過性で終わらない、体験やプロセスを重視したワークショップが出来たらいいと思います。例えば、「シルク製品ができる過程を体験ワークショップ」桑畑作って蚕を育てる、その繭から絹(シルク)を採取して、糸から生地になり、洋服ができるまでを実際に体験できる。かつては横浜の主要輸出産品という歴史 から「横浜らしい」ともいえるのではないのでしょうか。蚕に限らず、お茶やお米でもよいかもしれません。また、SDG を背景に、来場時に生ごみを持ってきてもらい、コンポストのワークショップを行ってみたりしてもいいと思います。横浜らしさといえはやはり国際性。海外との連携を企図して、園芸を介して外国人の方々と連携できるような場になったら良いと思います。インターナショナルスクールの子供たちにも来てもらったり、中華街の方々にもも関わって頂きたいです。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
327	1 章 会場になる土地の整備そのものが自然破壊になり、本末転倒ではないか。よそから花を持ち込むのではなく、今の手つかずの自然をなんとかして生かせないものか。そもそも今時博覧会に人は集まるのか。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
328	5 章 約半年で 1000 万人という、ディズニーランドに匹敵する相当な数の来場者を予定する根拠は何なのか。温暖化が加速している為、開催期間の殆どが来場に適しているとは思えない点も気になる。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。 いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
329	7 章 横浜シーサイドラインが新交通整備への参画を取り止めた為、バス輸送等を検討しているとの事だが、周辺道路の渋滞が懸念される。山下埠頭、山下公園周辺、みなとみらい地区を利用するなどテーマ別に会場を分けて開催することは出来ないのか。輸送計画で生じる問題が激減すると思う。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。 会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。

330	「ウォーキングツアーについて」 趣味でウォーキングを行っております、最近では仲間を募り、サークルのようなこともしています。健康にもつながるので趣味と実益を兼ねている感じです。 シニア層を引き連れて横浜市内の各所から万博会場を目指す【ウォーキングツアー】をやってはどうでしょう、博覧会についての情報の交換や発信の場にならないでしょうか。 ウォーキングのゴールとして広大な緑が待っているというのは魅力の一つです。 プレイベント的にかなり事前から始めても丁度よい博覧会に対する興味喚起の機会になると思います。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
331	「植栽関係の仕事の経験から」 植栽管理や緑化メンテの仕事に携わっています。その経験から友人や家族に植物のよさや特徴を伝えることが大好きです。こういった気持ちをより多くの人に届けたい、伝えたいという気持ちが強く、博覧会によって更につながりが増え、広がっていったら良いと思っています。 例えば、子供向け参加型で、会場の花で押し花をつくり、絵葉書にして会場から送ることが出来る、ワークショップとか実施できないでしょうか。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
332	会期終了後この広大な敷地をどう整備するのか、大変気になっています。あえて建物を残さず、入場料を払わなくても利用できる市民の憩いの場となる大規模な公園にするというのは、どうでしょうか。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
333	「会期後の活用について」 意見を提出するにあたり、実際の会場予定地に足を運んでみました。 横浜にはなかなかない広大な原っぱ、手つかずの大平原という印象でした。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』

	これはちゃんとしないと大変だ、という思いに駆られました。 作った後のことも考えながらやらないと大変なことになる、終わってからの利用が大事だと痛感しました。 例えば、折角ああいう場所なので、地産地消のでっかい市民農園になったらよいのではないかと思います。	を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
334	示された基本計画案に反対します。 理由は以下の通り。 ・上瀬谷の今ある自然環境を尊重する姿勢が見えない。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
335	・有料入場者数 1000 万人を可能とする根拠が薄く、過大である。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
336	・この入場者数に基づく収入をあてにして先に支出をすれば赤字になるのは必至。 ・にも関わらず赤字になった場合の方策もなく、責任の所在も不明で全く無責任。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
337	・周辺住民には交通渋滞など大きな負荷がかかるのに十分な説明もない。	周辺住民へのご説明については、既に実施している地域の会合の場等を通じて引き続き機会を設けて行います。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
338	・この意見募集も Web のみでは多くの人の意見を聞くことにならない。 現行計画での花博はとにかくやめていただきたい。	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら等、具体のコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画等も適宜検討状況を公表していきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
339	今年の春、海軍道路を久々に通ったが、以前通ったときよりも桜の木が小さく感じた。HP からは植え替えるようなことが読み取れるが、せっかく園芸博をやるならば日本の花である桜を世界に	博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会として

	見せたいと思うし、なるべく早く植え替えて仕上げて、開花する時期に間に合わせるべき。イベントを見に来る人は、町の雰囲気も見ているわけだし。いいものを見たいです。	は、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。いただいたご意見は検討の参考にさせていただきます。
340	私は今のままの瀬谷が好きです。 華やかな博覧会もいいですが、パンフレットを見ると、その時は盛り上がるけど、その後どうなるのでしょうか。 風揚げした広場、春の桜並木、そういった記憶を残してほしい。 もし博覧会をやるならば、次の世代も誇りにおもうような博覧会にしてほしいです。 人々が集まる広場は残し、日本中からいろいろな桜を集めて植えてはどうでしょうか。 東京オリンピックは建物を残しましたが、博覧会は自然を残してほしい。自然で世界に訴えるほうが日本的です。 そして桜はこのシンボルですし、日本のシンボルです。 木々は成長します。成長したときにまた博覧会を開き、美しい桜の景色を世界の皆さんにみてもらう。 住んでいるものにとっては、ここでやる博覧会をずっと覚えてほしいと思います。	博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会としては、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。 また、会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
341	自然と共生とうたいつつも、盛土で水田埋めてますね？ どうにも計画が信用出来ません。 自然を活かすなら、花博のためにコンクリで固めるのではなく、そのまま活かして花博を行い、グランピング施設作っては。 キャンプブームはまだまだ続くはずですし、キャンプであれば瀬谷という僻地の利点を活かせるでしょう。 また道具のレンタルを行うのであれば、大規模な災害の時に避難場所としても使え、テントやたき出しの器材も揃っているのが立派な防災拠点としても良いのでは。	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
342	楽しみにしています。 計画からどのような明日の風景を見せてくれるのかわかりません。具体的な内容がないのが残念ですが、はなとみどりは良いテーマだと思います。	いただいたご意見については、関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	す。予算がかかりすぎないように、民間資金や協力も得て下さい。こどもたちの思い出に残る博覧会をお願いします。	
343	花博を実施するメリットがない。神奈川県への観光者が増えるとは思えない。こんなところに税金を使うのではなく、住みやすい街になるよう、教育や子供に投資して、東京に勤務する高所得者を神奈川県内に住んでもらえるようにしたほうが長期的な税収につながる。	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
344	現状の自然を破壊し、SDGs に逆行する基本計画案に反対します。 現行計画での花博の中止を求めます。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
345	どんな植物を見せてくれるのか、具体的なことを書くべきです。つまらないお土産屋ではなく、花と緑を満喫させて下さい。全国、全世界に花と緑を好きな人はたくさんいます。こんな世相だからこそその博覧会にして下さい。家族で楽しみたいと思います。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
346	既存の桜並木を伐採せず、上瀬谷通信施設跡地の川や樹林、湿地、草原などの貴重な自然環境をそのまま保全する形での開催を望みます。それが不可能なのであれば、自然環境の破壊を伴う園芸博など何の意義もなく、地球にとっても市民にとっても害悪でしかありませんから、中止すべきです。	桜の伐採については、海軍道路（環状4号線）の桜は、年々老木化が進み、倒木の発生など市民生活にも支障をきたしていると横浜市より聞いており、市が毎年一定程度撤去せざるを得ない状況にあることは、やむを得ないことと受け止めています。 博覧会会場に将来整備される（仮称）旧上瀬谷通信施設公園では、公園内のシンボルとなる桜並木やサクラ広場の整備など、新たな桜の名所づくりを進めることが検討されています。本協会として

		は、いただいたご意見や思いを踏まえ、博覧会会場の中で、市と協力して、将来整備される公園の植栽を踏まえた計画をつくるなどの検討をしていきます。 また、会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
347	強く反対 何故貴重な自然を壊すのか。 自然を破壊した土地での花博というのは本末転倒であり、完全に間違っていると思う。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
348	収益の試算では辻褄を合わせるために過大な来場者数にしており、大赤字となることが間違いない。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。 いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
349	一般企業では到底通らない企画が、横浜市議会で簡単に通過していくのに大きな脅威を感じる。 これも旧市庁舎の売却と同じくゼネコン等の大企業との癒着しか考えられず、強く反対する。	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
350	自然環境の保全が考えられてこそ、広い意味での園芸博の意義があると思われます。準備、運営併せると、680億もの予算を使って開く意味が理解できません。これほどの予算を使うことが、次世代への負の遺産になることに気づいていただけないのでしょうか。計画案の見直しを、提言します。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
351	テーマパーク誘致の計画が頓挫した時点で、見直すべき計画を推進しておいてサステナビリティを謳うのはどうかしてます。 開催目的の空疎さは、作成した人、関わった人全てが分かっていることではないですか？横浜市	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

	民として、市政の劣化は目を覆うばかりです。	
352	2027年国際園芸博覧会基本計画案に全面的に反対します。 理由は、昨今の環境問題を鑑みて既存の自然環境生態系を適切に尊重すべきであるところを、むしろ取り返しのつかない形でそれらを傷つけ損なう案であり、尊重する方向性が見出だせず、まさにグリーンウォッシュ的で賛成できないからです。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
353	また、計画にある収入見込みが甘いと言わざるをえないと思います。さすがに、有料入場者数の1000万人については、根拠のない楽観的数字と考えるのが妥当ではないでしょうか。 以上のことから、不誠実さが見えかくれして不信感もありますし、コロナで先の見通しも難しいことから、現時点では花博自体を止めてほしいです。 以上	有料来場者数1000万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
354	赤字は出さないでください。 持続可能でない計画はやめてください。 花博が県民、市民の負担になることはごめん被ります。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
355	花博の基本計画案に反対します。 ・1000万人の入場者の根拠が不明。2021年のディズニーリゾートの年間入場者数が1,205万人です。交通アクセスの悪い花博予定地で、しかも開催期間半年での目標人数達成は難しいと考えます。	有料来場者数1000万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
356	入場者数が現実的でない以上、計画自体も現実的とは言えません。 2009年開国博の赤字負担を思い出します。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
357	・上瀬谷の自然を保全したほうが将来に渡って豊かさを残すことになる。 半年で終わるイベントの為に、自然を壊してしまうのは本末転倒ではないでしょうか。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努め

		てまいります。
358	横浜市には、半年のイベントである花博の開催自体を再検討し、コロナ禍への対応を始めとする市民生活を充実させる予算を増やしてもらいたいと思います。	いただいたご意見は、横浜市政に関するご意見と受け止め、横浜市に情報共有させていただきます。
359	基本計画案に反対します。 花博について知れば知るほど本来の自然との共生とは程遠い「開発案件」としか思えない。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
360	上瀬谷は交通アクセスが悪く、車での来場を考えた時に周辺自治体も含めた交通渋滞に対する配慮が汲み取れない。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
361	入場者数の想定が甘いと思う。子供時代（高度成長期）の大阪万博は夢があったが、地味な花博。園芸愛好家はそんなに多いのか？既存のテーマパークとして集客数の比較に挙げられる TDL や USJ は集客維持向上のために絶え間ない努力を重ねているので、同列に比較するのは論外だと思う。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
362	横浜市民として切実に危惧するのは、結果として収支が赤字になった時にそれを税金で賄うのが我々市民でありうること。	本博覧会の開催に当たっては、収支計画を策定し、適正に管理することにより、着実な運営を行っていきます。少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
363	基本計画案に反対します。 ”貴重な自然資本が残っています”と謳っている。わかっているではないか。貴重な自然資本が残っていることをわかっていながら自然を破壊して新しく人間が金儲けのための会場を作って自然を再生するなど笑止。	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
364	意見募集も Web のみで多くの人に意見を聞こうという姿勢が前提になく、計画ありきの事業の進め方にも非常に問題があると思う。 現行計画での花博の開催、自然破壊は反対です。	今後は、機運醸成に関する広報 PR 等を進めながら等、具体的なコンテンツや参加者募集などを適切なタイミングで発信していくとともに、個別の計画等も適宜検討状況を公表していきます。

		少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
365	瀬谷区、旭区、緑区など横浜の郊外部の活性化に資する展示を期待します。 また、人口減少・超高齢社会の進展のなかで、これまで都市の成長を支えてきた都市部の郊外部、ひいては日本の成長を支えてきた地方の中山間地など、国土の発展、持続的成長においてそうした地域が果たす意義を提示していただきたい。 具体的には、開催地横浜、あるいは首都圏の中で、どのように市民の暮らしが向上するのか、新たな産業が花と緑、農業をベースにして、どのように根つき発展していくのか、その道筋や人々の気づきを明らかにしていただきたい。	旧上瀬谷通信施設において開催する本博覧会は、Society5.0 の推進、グリーンインフラの実装、花き園芸文化の振興等を通じた農業・農村の活性化、観光立国や地方創生に関する日本国政府の政策を実践し、SDGs 達成に貢献するとともに、その先の社会も見据えた日本モデルを提示する場とします。 また、博覧会後も、さらなる展開として、「環境と共に生きる」知恵・行動を世界に伝播し、SDGs 達成やグリーン社会に向けた日本モデルの実現・主流化につなげていく役割を果たすとともに、友好と平和や持続可能なまちづくりの姿を国内外に発信し、基地跡地の平和的利用の象徴的な先例としていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
366	会期終了後は講演ではなく具体的な形で活用する。TVKハウジングのように住宅との合流や、花を敷き詰めた足湯、浜野菜のレストランを希望する。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。引き続き、本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
367	これまで掲げてきた「ガーデンシティ」から「グリーンシティ」へステップアップしていくためには、それを実行継続していくための業界の考え方、体制、人材育成などが非常に大切だと感じています。これが今の段階から始まっていないと、博覧会開催時に国内外の様々な視点を持つ来場者に恥ずかしくない会場を体験してもらうのは難しいでしょう。「伝わる博覧会」にしていくために、計画だけでなく、実践・継続をしていくために助けを必要とする方々と共に今から準備をしていくことが大切だと思います。（緑化フェア 5 年後の現状を見て感じていることです）	本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関等との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

368	地元発、横浜市瀬谷区ならではの企画を歓迎する。	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます
369	田んぼ（田おこしから収穫まで）やキャンプや宿泊ができる環境づくり。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「commons」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
370	パーク内の移動がしやすいモビリティを用意する。	動線計画は、多くの来場者が安全・快適に移動できることを基本として、快適性向上や移動負担の軽減を図り、展示された花や緑を鑑賞しながら移動自体が楽しみとなるような計画とします。 なお、来場者用動線については、徒歩による移動を基本としますが、来場者の利便性・快適性向上のため会場内モビリティ等も導入します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
371	天候に関わらず楽しめるイベントや展示、パビリオンの設計	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
372	花博開催に反対します。計画を中止または開催場所の見直しをしてください。 理由は ・今ある豊かな自然を破壊してほしくない、破壊したら元に戻らない	会場計画に当たっては、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。

373	・入場者見込み TDL 並を想定してるが、アクセスも悪く園芸かつ有料のイベントにそんな集客力があると思えず赤字が目に見えている	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
374	・市民からの反対意見が出てるにも関わらず開催を強行する姿勢に嫌悪 ・わざわざ上瀬谷を開発する必要性を感じない、利権がらみを感じる	いただいたご意見については、関係機関及び関係部署で共有させていただきます。 少しでも多くの方にご賛同いただけるよう努めてまいります。
375	一泊 300 万円で泊まれる花博	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
376	子ども向けの園芸博会場にてサマーキャンプを実施する	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
377	植え替え時期に自ら花を摘むことができる無償イベントの実施	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
378	有料入場者数の根拠が薄く、赤字になる可能性が高いと考えるため、基本計画案に反対します。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。

379	1000 万人の来場者数見込みは無謀。オランダのアルメーレの実態は御存知のはずです。日本で上瀬谷の立地でこの数字は現実的ではありません。 また、この入場者数をもってチケット代の収益で支出を賄うものですが、支出の面では逆に新交通が無くなつての駐車場やシャトルバス等の増額がある時点で大幅な赤字は必須です。 花博開催は止まらなくとも、もっと現実的な数字をもって事業計画を見直していただきたいです。	有料来場者数 1000 万人は、首都圏の後背人口等や過去の主な博覧会を参考に設定したものです。 今後、実際の集客に当たっては、魅力ある園芸博にすることは当然ですが、市内外、首都圏、国内外からの観光客の誘導や修学旅行のセットなども含め、戦略的な広報、集客活動を図っていきます。いただいたご意見は、参考にさせていただきます。
380	横浜 18 区各々の PR 大使を選任し、広報活動を行う	本博覧会開催前から、機運醸成や多様な主体の参加促進につなげるための連携・支援活動を行います。 本博覧会に関する様々な自主活動を支援し盛り上げる仕組みづくりや、本博覧会の理念と合致する企業・団体との共創活動、花き園芸・造園・農など国際園芸博覧会の核となる業界との参加連携活動のほか、行政機関や自治体との広域連携・参画推進活動を実施します。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
381	交通アクセスに関して、鉄道は JR、東急、相鉄。バスは神奈中バス、市交通局、相鉄バス、東急バスなどがあるが、それに合わせてみなとみらいで実証実験していた「チョイモビヨコハマ」を利用する。	来場者の動向にあわせ、交通インフラを活用し、自家用車やシャトルバス等の輸送手段の導入を念頭に、快適で円滑なアクセスルートを計画します。会場周辺の交通特性を踏まえ、P&R の導入など混雑対策も検討し、来場者の利便性と地域の生活環境の双方に配慮した輸送アクセス体系を目指します。
382	実際に自然の中で暮らすことのできるゾーンを計画する	会場計画では、まとまりのある樹林や、谷戸地形、生息する生物などの自然環境（地形、土、水、風、緑）を把握し、それらを効果的に取り入れた計画を行い、魅力ある、快適・安全な基盤を形成します。また、運営計画では、自然とのふれあい等の体験に適した会場内の空間（最適密度）を設定し、来場者同士の双方向型のコミュニケーションを高める運営に取り組んでいきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。
383	全世代型イベントを実施する。植物を通じた教育、ボランティアや高齢者の活用など。防災フェア、ペットも来場できるようにドッグランの設計、花のイルミネーションナイト、プロスポーツチームとのコラボレーション、ディズニーとのコラボレーション、18 区の花との連動、横浜開港祭との連動。	様々な展示・体験プログラム等の多様なコンテンツを複合させた共創型テーマ事業「Village」や、会場の中に複数配置する参加型の交流拠点「コモンズ」を活用し、多様な参加者が主体的に、楽しみながら共に活動できるプログラムなどの取組を検討していきます。いただいたご意見は、今後の参考にさせていただきます。

384	園芸博終了後を見据えて、計画があるべきと考えます。跡地は、横須賀の「ソレイユの丘」のような、農業体験ができる、地産地消、カーボンフリーが実践される空間になれば良いと考えています。	会場跡地の一部は、将来横浜市により園芸博の記念公園として、園芸博の理念や取組などを継承していく公園とする予定です。令和4年6月に公表された（仮称）旧上瀬谷通信施設公園基本計画（案）では、『「みどり」で広がる暮らしの風景』を公園の基本テーマに、花と緑、農、水の風景が広がる上瀬谷で、「みどり」とともにある持続可能で多様なライフスタイルを実践・発信するとしています。また、『「農」と持続可能なライフスタイルの融合』を公園整備の方針の一つとしています。引き続き本博覧会開催後も見据えた会場計画を、横浜市と調整の上で検討を進めていきます。いただいたご意見は、関係機関と共有し今後の参考にさせていただきます。
385	・生産物のコンペティションは、品種なのか、品質なのか（生産力）ははっきりと決めることが大切。出品国が少ない懸念（他の園芸博覧会例） ・環境変化に対応する緑化植物（園芸種・野生種も含めて）の試験・活用の仕方も含めたコンテストもして欲しい。（実用化、今後の社会づくりに役に立つコンテスト内容だと、より多くから注目されると思います） 開園 2, 3 年前から植付をし、気候変動の激しい瀬谷の会場環境の中でどのように適応していくのか、枯死していくのか。まちづくりのなかで必要となってく草本類・樹木も含めたコンテストがあると良いです。	コンペティションの具体的な内容については、今後詳細に検討し適時公表してまいります。多くの参加が可能なカテゴリーや規定の検討を進めます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。
386	・政府出展やシンボル展示などは、様々な分野の多くの要素を入れてしまわないように、シンプルに伝えられる展示であると良いと感じました現在開催中のフロリアード 2022 では、国によって発信の仕方もことなり、シンプルにストレートに内容を伝えている国のパビリオンが興味深かった、と感じました。	基本計画に展示・出展の基本方針を追加しました。 1. 植物で驚きや感動を与え、植物への興味・関心を促す展示 2. 植物への理解や知識を深める展示 3. 花・緑・農・食の活用による諸問題の解決策、花・緑・農・食と創る未来の産業の展示 4. 花・緑・農・食と新たな感性で創る多様な文化と暮らしの在り方の展示 5. 課題解決への道筋を共創し、連携して世界に向けて発信し、未来へ伝える展示 以上の考え方のもとに各種展示を行います。より多くの方に関心を持っていただけるよう具体化の検討を進めていきます。 いただいたご意見は今後の参考にさせていただきます。

		きます。
387	・車椅子利用者や障害を持つ方々にもスムーズに利用ができるよう、駅やバスターミナル、タクシー乗り場などの交通面の整備をお願いしたい。	ご意見ありがとうございます。引き続きユニバーサルサービスに十分配慮した環境整備を目指してまいります。